2008
子どもゆめ基金®ガイド



独立行政法人
国立青少年教育振興機構



目次

「子どもゆめ基金」について 1

「子どもゆめ基金」の概要 2

平成20年度　応募・採択状況 4

平成13～19年度　応募・採択状況 6

平成19年度助成活動事例（子どもの体験活動） 7

平成19年度助成活動事例（子どもの読書活動） 28

平成19年度助成活動事例（教材開発・普及活動） 36

普及啓発事業の実例 38

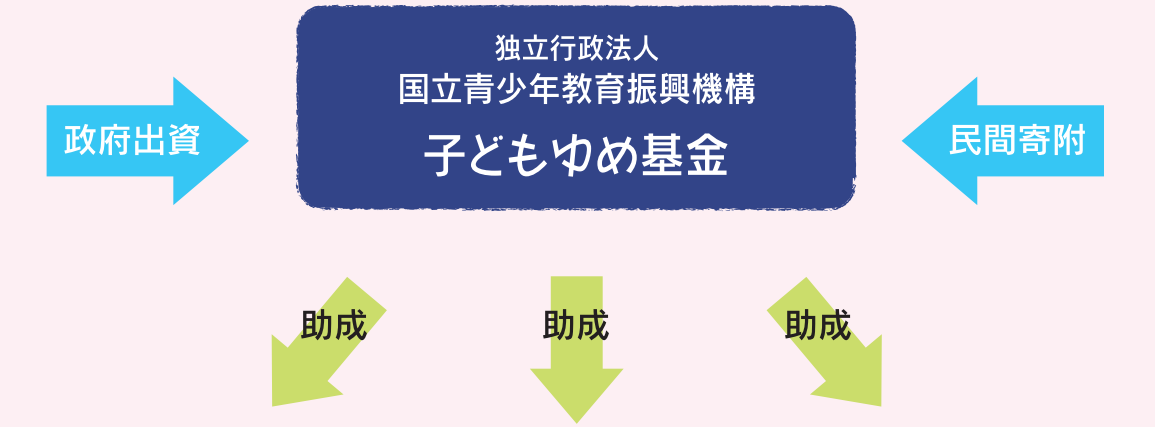
「子どもゆめ基金」への寄附団体 40

「子どもゆめ基金」について

今日、社会全体のモラルの低下、地域社会の教育力の低下、メディア上の有害情報の氾濫など子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しており、自分自身で考え創造する力、他人への思いやりの精神が身についていないと指摘されています。また、子どもたちの社会性を育成する観点から、自然体験活動等の体験活動の充実や、言葉の教育の重視などが提言されております。

このような状況を踏まえて、「子どもゆめ基金」は、超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子どもの未来のために有意義な基金の創設を発意し、同議員連盟が中心となって検討を進めてきたものを受け、平成13年度政府予算において措置された政府からの出資金100億円に加え、民間からの寄附を原資とする基金として創設されました。

この基金は、未来を担う夢を持った子どもの健全な育成の一層の推進を図ることを目的に、民間団体が実施する特色ある新たな取り組みや、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への支援を行っています。




子どもの体験活動を支援


子どもの読書活動を支援


子ども向け教材開発・普及活動を支援

「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

助成対象活動

子どもの体験活動の振興を図る活動への助成

活動例

①子どもを対象とする体験活動
・自然観察、キャンプなどの自然体験活動
・清掃活動、高齢者介護体験などの社会奉仕体験活動　など
②子どもの体験活動を支援する活動
・子どもの体験活動の指導者養成　など



子どもの読書活動の振興を図る活動への助成

活動例

①子どもを対象とする読書活動
・読書会活動、読み聞かせ会　など
②子どもの読書活動を支援する活動
・子どもの読書活動の振興を図るフォーラムの開催　など



子ども向けソフト教材を開発・普及する活動への助成

活動例

・子どもの体験活動や読書活動を支援・補完する、インターネット等で利用可能なデジタル教材を開発し、普及する活動

助成対象団体

民法法人、NPO法人など青少年教育に関する事業を行う民間の団体

普及啓発

子どもの体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発（子どもゆめ基金ガイドの作成、子どもゆめ基金PRビデオの作成、普及啓発事業の実施 等）

助成金の額

個別の助成活動に対する助成金の額は、予算の範囲内で、審査委員会の議を経て決定されます。

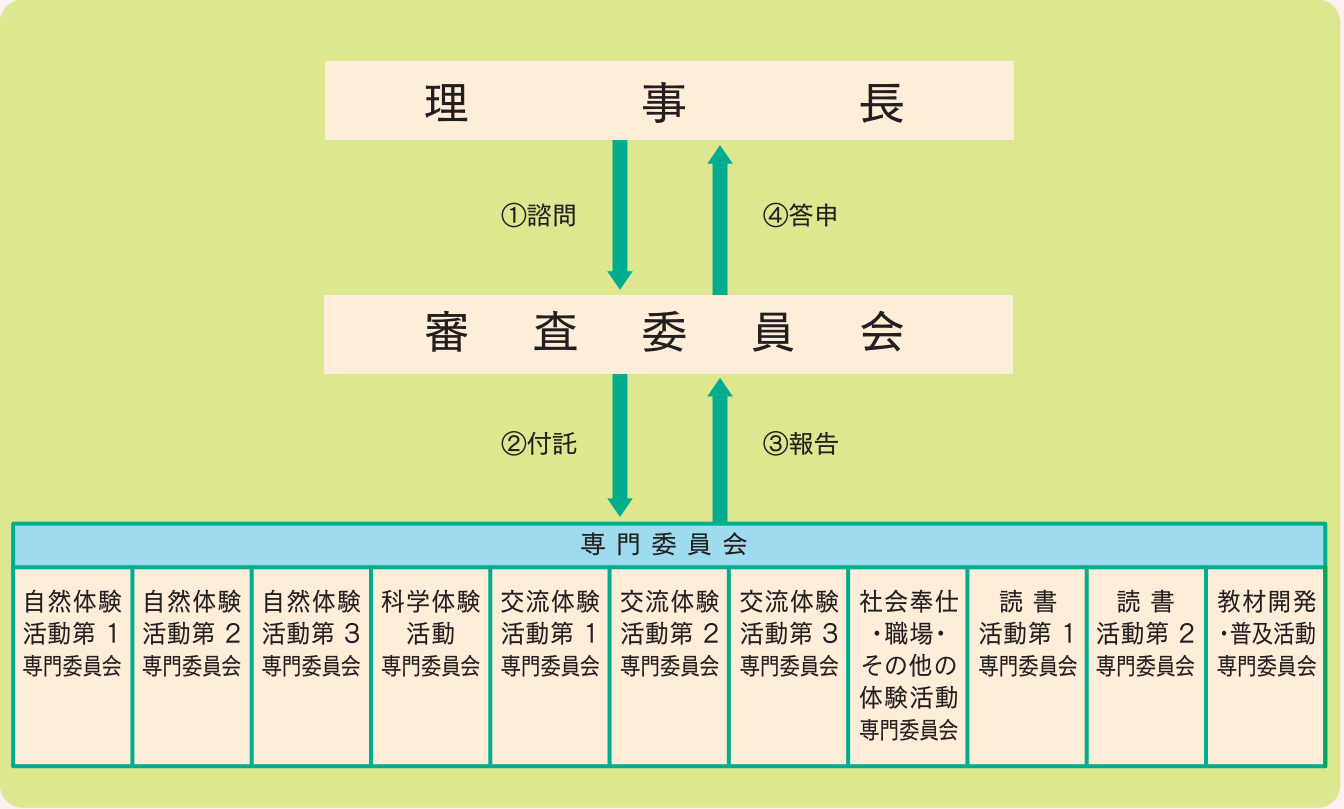
審査方法

子どもゆめ基金における助成対象活動の決定については、子どもゆめ基金による助成金の交付を適正に行うため、自然体験活動や社会奉仕体験活動等の体験活動、読書活動、教材開発などの分野において実務経験を持ち、かつ青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、そのもとに各分野別の実情及び特性を踏まえて審査を行います。

応募のあった活動については、機構理事長から審査委員会へ助成活動の採択について諮問を行い、これを受けて審査委員会から専門委員会へ調査審議の付託を行います。

専門委員会の審査は、各団体から提出のあった助成金計画調書について、各専門委員が専門的見地から評価し、合議により助成対象活動の評定（選定）を行います。

審査委員会では、各専門委員会での審査結果をもとに、採択すべき助成活動及び助成金の額について審議を行い、採択する活動及び助成金額を決定します。



平成20年度　応募・採択状況

活動区分別応募・採択状況

（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,231	1,705	1,159,493
子どもの読書活動	516	450	219,390
教材開発・普及活動	84	28	278,581
合計	2,831	2,183	1,657,464

子どもの体験活動都道府県別応募・採択状況

（単位：千円）

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	117	92	62,824
青森県	23	16	8,425
岩手県	32	27	15,600
宮城県	30	24	14,994
秋田県	11	8	2,446
山形県	18	10	5,984
福島県	19	16	6,497
茨城県	43	28	13,638
栃木県	39	33	13,110
群馬県	15	10	7,626
埼玉県	75	64	33,568
千葉県	75	59	33,564
東京都	337	234	312,921
神奈川県	89	72	40,937
新潟県	30	25	14,923
富山県	13	11	6,629
石川県	27	23	13,556
福井県	28	23	21,663
山梨県	20	17	20,226
長野県	56	45	42,166
岐阜県	29	24	10,334
静岡県	52	40	28,416
愛知県	72	54	27,366
三重県	18	17	6,075

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
滋賀県	70	50	19,122
京都府	63	53	34,041
大阪府	217	176	81,549
兵庫県	87	67	35,820
奈良県	21	15	7,046
和歌山県	21	16	7,589
鳥取県	14	7	1,967
島根県	16	13	6,017
岡山県	25	22	11,639
広島県	29	18	12,354
山口県	18	13	5,602
徳島県	40	33	15,384
香川県	16	10	6,233
愛媛県	23	20	6,644
高知県	19	13	6,006
福岡県	84	54	26,808
佐賀県	6	5	2,443
長崎県	22	16	19,361
熊本県	65	48	41,663
大分県	19	16	8,970
宮崎県	17	13	7,748
鹿児島県	56	45	24,702
沖縄県	15	10	7,297
合計	2,231	1,705	1,159,493

※応募団体の所在地である都道府県別に集計した件数・金額である。（以下、同じ）

子どもの読書活動都道府県別応募・採択状況

（単位：千円）

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	24	22	11,823
青森県	1	1	102
岩手県	9	8	2,145
宮城県	5	4	1,151
秋田県	10	10	2,559
山形県	1	0	0
福島県	7	7	8,310
茨城県	4	4	1,140
栃木県	9	8	5,417
群馬県	5	2	601
埼玉県	13	10	2,839
千葉県	16	16	3,373
東京都	60	51	68,418
神奈川県	16	15	4,419
新潟県	13	13	3,845
富山県	5	2	1,336
石川県	5	3	2,124
福井県	2	2	433
山梨県	11	10	1,858
長野県	14	13	6,044
岐阜県	9	8	2,318
静岡県	8	7	2,263
愛知県	11	9	2,959
三重県	5	5	1,226
滋賀県	22	22	7,350
京都府	15	13	3,928
大阪府	55	53	13,141
兵庫県	11	10	4,999
奈良県	2	2	1,896
和歌山県	6	6	1,810
鳥取県	2	2	1,970
島根県	11	8	2,373
岡山県	4	3	757
広島県	2	1	220
山口県	4	3	4,119
徳島県	7	6	957
香川県	5	4	864
愛媛県	1	0	0
高知県	2	2	476
福岡県	26	24	8,468
佐賀県	5	3	602
長崎県	10	9	1,958
熊本県	20	16	11,405
大分県	6	4	1,314
宮崎県	18	15	5,508
鹿児島県	16	13	8,360
沖縄県	3	1	212
合　計	516	450	219,390

教材開発・普及活動都道府県別応募・採択状況

（単位：千円）

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	2	1	7,713
岩手県	1	0	0
宮城県	1	0	0
秋田県	1	0	0
福島県	1	0	0
栃木県	1	1	10,213
群馬県	1	1	7,268
埼玉県	1	0	0
千葉県	3	2	21,989
東京都	34	14	142,403
神奈川県	4	1	6,894
福井県	1	1	5,641
長野県	2	1	11,007
岐阜県	4	2	23,469
静岡県	2	0	0
愛知県	6	0	0
滋賀県	1	0	0
京都府	2	1	9,442
大阪府	3	0	0
兵庫県	3	2	20,118
島根県	1	0	0
広島県	1	0	0
愛媛県	1	0	0
高知県	1	0	0
福岡県	1	0	0
長崎県	1	0	0
大分県	1	0	0
鹿児島県	3	1	12,424
合　計	84	28	278,581

平成13～19年度 応募・採択状況

平成13年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,724	1,469	971,607
子どもの読書活動	257	207	91,805
教材開発・普及活動	87	30	285,668
合計	2,068	1,706	1,349,080

平成14年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,813	1,590	1,141,906
子どもの読書活動	352	322	129,104
教材開発・普及活動	80	28	278,804
合計	2,245	1,940	1,549,814

平成15年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,910	1,723	1,275,061
子どもの読書活動	356	320	170,860
教材開発・普及活動	94	27	247,493
合計	2,360	2,070	1,693,414

平成16年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,837	1,611	1,319,642
子どもの読書活動	351	317	209,506
教材開発・普及活動	94	23	232,335
合計	2,282	1,951	1,761,483

平成17年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,812	1,690	1,419,241
子どもの読書活動	325	299	227,268
教材開発・普及活動	91	27	259,884
合計	2,228	2,016	1,906,393

平成18年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,532	2,022	1,214,730
子どもの読書活動	549	427	192,908
教材開発・普及活動	103	28	230,150
合計	3,184	2,477	1,637,788

平成19年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,441	1,848	1,182,549
子どもの読書活動	523	464	210,771
教材開発・普及活動	112	30	244,544
合計	3,076	2,342	1,637,864

自然体験活動青年ミーティング2007

実施団体名　社団法人 日本キャンプ協会
連　絡　先　〒151-0052　東京都渋谷区代々木神園町3-1　国立オリンピック記念青少年総合センター内
TEL:03-3469-0217　FAX:03-3469-0504
E-mail:ncaj@camping.or.jp
URL:http://www.camping.or.jp/

活動の概要

「学校の実習での経験はあるけれど、もうちょっとキャンプなどの自然体験活動のこと、知ってみたい」それが「自然体験活動青年ミーティング」のねらいです。

参加者は、多様な活動フィールドを持つ朝霧高原の特色を活かした様々なプログラムを体験し、自然体験活動の楽しさ、可能性を感じとっていました。

活動の内容

この事業は、当団体構成員のほか、会員の中でも20代後半から30代の若手指導者がメンバーに加わり、プログラムの内容を検討し、運営を行いました。メンバーは約半年前からプログラムや運営方法について検討を重ね「参加者はどのようなプログラムに関心があるか?」「どのような運営をすれば、より多くの気づきが生まれるだろうか?」、などの議論が毎回長時間に及びました。

2泊3日の「自然体験活動青年ミーティング2007」のメインプログラムは、16のワークショップです。「アイスブレイキングゲーム」「リスクマネジメント」「キャンプカウンセリング」「音楽」「クラフト」などキャンプ指導に関する内容、「リーブ・ノー・トレース」「生態系」などの環境に関する内容のほか、「MTB(マウンテンバイク)」「毛無山登山」などの朝霧高原の自然を活用した実践的なプログラムもありました。参加者はその中から事前に1～2つのプログラムを選んで参加しました。


朝霧高原をMTBで疾走


ワークショップでグループワークを学ぶ

このほかに、若手指導者が自然体験活動の指導者になったきっかけなどを聞くパネルディスカッション、夜はキャンプファイアーも行われました。また、一人きりの静かな時間を持って、その時の思い、感覚を自由な形で表現する「青年達の展覧会」というプログラムにより、自分たちの思いを分かち合いました。

成果と課題

この事業の成果としては、2つの視点があります。1つめは、「参加者にとって」、多数用意されたワークショップなどのプログラムを体験することで、自然体験活動の楽しさを実感するとともに、朝霧高原というひとつのフィールドに限っても多様なプログラムの可能性があるという気づきを得ることができました。

2つめは、「本事業の運営を行った若手メンバーにとって」、スタッフも含めると100人を超える大規模な事業の運営をすることにより、指導者育成の難しさやその意義を感じることができました。

自然体験活動の意義が見直される中、質の高い指導者の育成が強く求められています。この事業を通じて、参加者は自然体験活動の楽しさを知り、若手メンバーが指導者を育成する立場としての学びを深めたことは、とても有意義なことです。

今後もこの事業を継続し、かつての参加者が企画運営メンバーとしてこの事業にかかわることにより、良質な指導者を育てる継続的なシステムとして定着させたいと考えています。


毛無山でビバーク(野営)


グループワークで人間知恵の輪に挑戦中

団　体　の　概　要

社団法人日本キャンプ協会は、「キャンプをみんなのものに」「キャンプをみんなの手で」という願いの下、キャンプの普及と振興に努めています。多くの人が、よりよいキャンプに接することができるよう、指導者養成や調査・研究のほか、キャンプの効果や安全についての情報提供を行うなど、さまざまな事業を行っています。

夏休み発達障害児のための自然体験活動 2007

実施団体名　トライアングル
連　絡　先　〒506-1122　岐阜県飛騨市神岡町坂富町13番地11
TEL:0577-82-5892　FAX:0577-82-5892
E-mail:hida_triangle@yahoo.co.jp
URL:http://www.wingbb.net/~woodstock/triangle/

活動の概要

日常生活の中で生きにくさを感じている発達障害児に活動の楽しさを知ってもらい　また、スキルを学ぶことで日々の生活を過ごしやすくすることを目的とし2つの活動を実施しました。

活動の内容

＜兄弟デイキャンプ＞

自分たちのペースで自然を楽しみ、自分に合ったペースの活動でスキルを身につける。

兄弟は他の発達障害児と出会うことで理解を深め、また、同じ境遇の兄弟たちと知り合う事でピアカウンセリング的なものを期待する。

10:00スケジュール説明、講師紹介
10:30低学年　川あそび(川遊びのルール、注意説明後自由に楽しむ)
高学年　薪割り(ナタの使い方注意をうけた後、講師の支持に従って行った)
炊飯体験(自分達の割った薪でかまどに火をおこしお釜でご炊飯)
11:30昼食準備　火おこし体験、おにぎり作り包丁の使い方のアドバイスを受けながら取り組む
12:00昼食　バーベキュー　焼き方、みんなで食べる時のルールを学びながら食事を楽しむ
13:00後片付け(洗剤の量など細かいこともスキルとして学ぶ)
13:30低高学年 川遊び(自由にあそぶ)
15:00低高学年 公衆浴場の入り方を学ぶ
(入浴券を買うところからアドバイスを受けながら挑戦する)
15:50終わりの会、解散
(日頃の一斉指導では理解が難しい事が多く、すべてがスキルを磨くことにつながった)

＜自然体験合宿＞

思春期の発達障害児が同じ特性をもつ


難しいけどうまくいくと気持ちいい薪わり

仲間と出会い、自然の中で時間を共にすることで自分らしさに気付き、自信がもてるようになることを期待する。

◇1日目

11:00入所オリエンテーション
11:30部屋へ移動、自己紹介後、ベットメイキング等指導
12:00昼食(バイキングのマナーを守り楽しく食事をする)
14:00マウンテンバイクでコースを回ろう
(指導者に従い初めての事にも挑戦し怖くてもやってみる。辛くても頑張ることで自信をつけることができた)
17:00入浴(公衆浴場でのルールを学ぶ)
18:00夕食
18:40子どもたちが自発的に出し物を考える
(大人が係ることなく自分たちで作り上げる)
19:00スキルトレーニング
出し物発表(子どもたち全員参加で楽しみ観るものを笑わせるレベルの高いものになっていた)
グループに分かれてスキルトレーニングを行う。
大学生 社会性、日常生活、気持ちのコントロールを学ぶ。
中高生　ゲームを通して社会性、気持ちのコントロールを学ぶ。


見てきた自然をイメージしてオリジナルのコースターを作ろう

20:30自由時間
21:00就寝

◇2日目

6:00起床、朝の集い参加
6:45掃除(荷物のかたつけ、自分の担当場所の掃除)
7:00朝食
9:00ウッドクラフト(コースター作り)
イメージを作るための散策(自然の中を歩きアルプスの山々を眺めることで経験できた事も多い)
コースター作り(器具の扱いに気をつけながら自由に作成)
11:30活動のまとめ(指導者からの評価、参加者の感想を発表)
12:00昼食
13:00バス移動、駅にて解散
(指導者の分かりやすい指示、評価をもらうことで自己評価をあげることに繋がり自信をつけ楽しく過ごす事ができた)

成果と課題

子どもなら誰でも自然に楽しめる場においても発達障害の子どもたちには楽しめないことが多い中、この活動中は自分の思いを表現し、楽しんでいる様子がうかがえました。また、細かく具体的な生活スキルを学ぶ中で、何よりも本当に楽しそうな子どもたちの笑顔がありました。

この活動により、私たち発達障害児に関わる者として「環境を整えてあげることで発達障害児も楽しみ正しく学ぶことができる」ことを再確認しました。


自然にかこまれた川で遊ぶのは楽しかった

団　体　の　概　要

トライアングルは岐阜県飛騨地区の発達障害児を持つ親の会です。

会員の子どもたちは月1回、ボランティアスタッフと共に、創作活動やクッキング。年数回のお楽しみ会を行っています。私たちは「自助組織」にとどまらず、同じ障害を持つ子どもたちの成長を助け、見守り、居場所を確立したいと思い2006年から活動をスタートした団体です。

いきいき2007オホーツク自然体験村

実施団体名　いきいきオホーツク自然体験村実行委員会
連　絡　先　〒004-0073　札幌市厚別区厚別北3-3-11-7
TEL:011-893-0835　FAX:011-893-0835
E-mail:ztc05615@nifty.com
URL:http://mu-mu-tokoro.jp/

活動の概要

この活動は平成12年より全国から集まった子どもたちを対象に「子ども長期自然体験村」として開催している。

異年齢集団が13泊14日の長期自然体験を通じて、動植物、水、土などに直接触れることで知識を学び、自然環境や自然愛護への意識や態度が育成される。加えて、自分自身の秘められた可能性を見出すとともに、思いやり、自主性、協調性、忍耐力、社会性を養うことを目的として地元住民主導で実施してきた。



助け合いながらの山登り

活動の内容

「最初は行動・五感を磨く・日々挑戦・協働」をテーマに生活指導を中心とした活動を行った。朝6時起床、朝のラジオ体操、食事の準備、食事の後片付け、部屋の清掃、トイレの清掃を各班ごとに役割を分担して実施するのを日課としている。

1日目、2日目は2週間の食材確保のため地元での農業体験と漁業体験を行う。

慣れないながらも自分で収穫した食材には愛着がわくためか、日々の食事はみな完食していた。



みんなでイモ堀

特別プログラムは、この事業に共感する経験豊富な専門家や研究者に協力いただき、山登りや壁画作りを行った。

昆虫採集では都会では少なくなったチョウ、クワガタ、カブトムシ、トンボ、セミなどを観察、採集して標本として持ち帰ってもらった。

また、たたら鉄では、オホーツク海の砂鉄を採取し、日本古来の製鉄技術「たたら」により立派な鉄をつくりあげた。10時間連続の体験作業にもかかわらず、子どもの持久力、忍耐力はすばらしかった。鉄打ち作業により20kgの砂鉄から5kgの良質な鉄塊を作り出した。



炉に砂鉄を入れる子どもたち



完成した縦5m横10mの壁画

成果と課題

平成12年からの長期自然体験村で、17都道府県61市区町村延べ171人の子どもたちが参加した。当初は「楽しく遊ぶ」から「自分への挑戦、年少者への思いやり」を主体としてきた。参加者の中からは獣医師を目指す子、科学者を目指す子や体験で持ち帰った昆虫の生態を調べて発表したり、日記ではなく自分の新聞として発表する子どもも増えてきた。

学校教育では実施できないプログラムを導入することで子どもの大きな変化もみられ、経験のある講師陣とともに、昔どこにでも居た「遠慮なく子どもを叱る」ことのできるおじさんの存在が、子どもの学びには重要だと考えている。

今後の課題は、この事業を引き継ぐ若者を育てることが責務であることを認識している。

団　体　の　概　要

この活動は、2000年から2006年まで「特定非営利活動法人　自然体験村虫夢ところ昆虫の家」が実施してきたが、度重なる自然災害のため、継続的に実施していくことが困難となった。しかし、地元の支援者やリピーターから活動の継続を要望する声が多く、過去に活動に携わった者が有志を募り、定年退職者が中心となって2007年に当実行委員会を発足した。

生きる力塾

実施団体名　木風舎
連　絡　先　〒166-0004　東京都杉並区阿佐谷南3-45-4
TEL:03-3398-2666　FAX:03-3398-7448
E-mail:mokufu@mokufusha.com
URL:http://www.mokufusha.com/

活動の概要

「生きる力塾」は、都市における日常的な体験教育のスタイルを模索する試みです。

今、子どもたちにいちばん必要なのは、ものごとへの興味や、おもしろさを見つける感性、学びたいという意欲、そして自分のことを相手に伝えたり、相手の気持ちを考える力なのではないだろうか。遊びなどの体験を通して、これらの「生きる力」をはぐくむことが、活動の理念です。

この活動のいちばんの特徴は、キャンプなどの非日常的な空間だけでなく、子どもたちの日常の生活空間と人間関係の中で、おもに都市公園や公民館を舞台に放課後事業として開催している点にあります。これまで、文部科学省委託事業である「子どもの居場所づくり」を3年間実施したことが、土台となっています。今まで踏み出せなかった、都市における身近な体験活動について、「子どもの居場所づくり」事業として試行を重ねることによって、継続への手ごたえ、ノウハウを持つことができたのは、とても大きな収穫だったと感じています。

活動の内容

公園で身近な自然体験：
都市公園での身近な自然とのふれあいを通して、いのちを大切に思う気持ちや、考えたり工夫したりする力を育てるプログラム。「どんぐりだんごをつくろう」「落ち葉と種でアートする」「樹と友だちになる」


戸隠キャンプ

「たき火をおこして焼きイモ焼こう」など、8回実施。

遊びで育つコミュニケーション：
昔からの遊びやゲームを通して、自分の気持ちや意見を表現する、相手の気持ちを考え、意見を聞く、協力して課題を解決する達成感をはぐくむ等のプログラムを10回実施。

体験から始まる科学：
実験や工作、観察などを通して、楽しみながら、グループで話し合いながら、科学を学ぶ。NPOティーチングキッズの講師による、GEMSプログラムなどを10回実施。

スポーツが楽しくなる：
体力の二極分化が進む中、身体を動かすことの楽しさや、相手が受け取りやすい球を投げるなどコミュニケーションを学ぶプログラムを4回実施。

自分たちの身を守ろう：
地域安全マップ作りを1回、地震や水害の対処法を1回実施。

このほか、9月連休と春休みにそれぞれ2泊3日のキャンプを実施し、人間関係と体験を深めました。


自然体験

成果と課題

放課後中心に行うためプログラムの実施時間は限られていますが、回数を重ねるごとに他者への関わり方や意欲など、子どもたちの変化は確実に感じられます。一方、以前実施していた「子どもの居場所づくり」の頃は土日活動もあって多くのボランティアが活動していましたが、放課後活動は仕事のあるボランティアの活躍が難しく、ほぼ講師と職員だけの運営に頼らざるを得ないことが課題です。

今後は地域在住の外国人の方にもご協力をお願いして、国際理解プログラムなども実施したいと思います。


コミュニケーション

団　体　の　概　要

1982年創立の自然学校で、人と自然、人と人をつなげて、持続可能な社会をつくることを目的としています。従来は山や森を舞台とした一般公募の自然体験プログラム(おもに大人対象)を得意としていましたが、「子どもの居場所」事業以降、都市を舞台とした子どもプログラムにも積極的に取り組むようになりました。

何でも自分で！　通学合宿　さわやか楽(学)寮

実施団体名　さわやか楽寮実行委員会
連　絡　先　〒321-1264　栃木県日光市瀬尾412-29
TEL:0288-22-9949　FAX:0288-22-9949

活動の概要

この活動は、大学生、社会人のボランティアが子どもたちと生活をともにし、「自立心や責任感及び基本的生活習慣を培うとともに“豊かな心”と“望ましい人間関係”を育む。」ことを目的に、日光市内の小学4年生から中学2年生までの40人が、学校へ通学しながら(月曜日から金曜日までは自分の学校へ登校)、今市少年自然の家で7泊8日の集団宿泊生活をする事業である。

活動の概要

活動テーマを『自分への挑戦』とし、集団生活や様々な活動の中で、自分が挑戦する目当てを具体的に決め、実践した。また、一日の終わりに自分の挑戦について振り返りを行い、翌日の活動に活かした。

1日目　10月27日(土)
◇入寮式　◇仲間作りゲーム
◇イニシアチブゲーム
(ワープスピード、TPシャッフル)
◇日程・生活・洗濯説明
◇話し合い活動
(個人のめあてと班のめあて及び係)

2日目　10月28日(日)
◇丸山ハイキング・今市ダム見学
◇天体観測

3日目　10月29日(月)
◇歌「栄光の架け橋」の練習
◇話し合い活動
(ダッチオーブンで野外炊飯メニュー作り)

4日目　10月30日(火)
◇ナイトハイキング
◇話し合い活動
(キャンプファイア出し物決め)

5日目　10月31日(水)
2グループに分け実施


丸山ハイキングの様子

◇パソコンでTシャツ作り
◇歌「栄光の架け橋」の練習及びキャンプファイア出し物練習

6日目　11月1日(木)
2グループ二分け実施
◇パソコンでTシャツ作り
◇歌「栄光の架け橋」の練習及びキャンプファイア出し物練習

7日目　11月2日(金)
◇お別れキャンプファイア
◇グループファイア
◇振り返り作文

8日目　11月3日(土)
◇ダッチオーブンで野外炊飯
◇退寮式

毎日の活動
◇布団敷き・たたみ　◇清掃　◇洗濯
◇宿題　◇食事の用意　◇日記の記入

成果と課題

成果としては、
①違う学校、違う学年の人たちと7泊8日生活することで、「友を気遣い」「友達と協力する」心を育てることができた。また、活動テーマを「自分への挑戦」としたことで、目的意識をもち、その目的に向かって毎日努力することで、参加者の「たくましさ」を育てることができた。
②知らない友達やボランティアリーダー、自然の家の職員との活動や生活の中で、「誰にでもあいさつすること」の大切さに多くの参加者が気づいたことなどがあげられる。

毎日毎日でも、1週間でも、目標をもって生活、活動することは、生活や活動を充実したものにすると同時に、子どもたちをより成長させることにつながるものであると考える。1週間親元を離れた宿泊学習は、子どもたちにとって貴重な体験となると改めて感じた。

また、課題としては、
①活動期間中は、あいさつや整理整頓など基本的生活習慣を意識して生活するが、家庭に戻ると意識しなくなってしまうため、どのように定着させていくべきか、
②7泊8日という長期宿泊事業での、大学生・社会人のボランティアは、授業や仕事があるので、人数を確保することが難しいことである。


ダッチオーブンで野外炊飯の様子


お別れキャンプファイアの様子

団　体　の　概　要

平成10年に活動を開始し、平成19年度で第10回をむかえた。8名の実行委員で企画運営を行っていた。毎年、「栃木県立今市少年自然の家」会場に1週間宿泊しながら、自分の学校に通い、夜や休日に自然活動や創作活動する事業を行ってきた。

参加者の約3分の2の児童生徒が、初参加であるが、中には小学4年生から中学2年生まで5年間通学した児童生徒もいた。

行こう火の山 守ろう自然―子ども環境体験教室in那須―

実施団体名　特定非営利活動法人　日本ヒマラヤン･アドベンチャー･トラスト(略称HAT-J)

連　絡　先　〒102-0072　東京都千代田区飯田橋3-7-4　陽和ビル301
TEL:03-3237-6733　FAX:03-3237-6734
E-mail:from_hp_hatj_inf@hat-j.jp
URL:http://www.hat-j.jp/

活動の概要

当団体は、山岳環境保護を目的としており、環境教育と国際交流は青少年からとの思いからアジアの高校生に呼びかけて国際交流青少年環境体験登山を十数年実施してきた。その手ごたえから小･中学生にも自然体験を通して環境学習をと、那須甲子少年自然の家の協力を得て、この活動を企画した。異なる地域から集まった子どもたちが那須の山で合宿して清掃登山やオリエンテーリングなどの野外活動を通して、人を思いやり自然環境を大切に思う心を育み、将来自然環境保全の担い手となることを期待して実施した。

活動の内容

1日目　新宿から松戸経由でバス移動。車中、自己紹介やゲームで初対面の子どもたちはすっかり仲良くなる。那須甲子少年自然の家で西郷村からの参加者と合流、3人ずつの班に別れてスコアオリエンテーリング。頭を寄せ合い地図を覗き込み、相談しては緑の野山を元気に駆け回ってポストを探していた。
入浴･食事の後は、環境学習と今日の振り返り。夜は男女二つの大部屋に別れて子どもたちとスタッフが一緒に、寝袋で眠った。

2日目　台風の影響で風が強く霧が立ち込めていたが南月山クリーンハイクへ出発。強い風と霧雨、雨具を付けた小さい子どもは、スタッフが手をつないで歩いた。風雨の中での登山だったが皆よく頑張っていた。程なく天候が回復し、



霧と風の中 登山開始

一転して楽しい山歩きとなった。ごみを拾い、高山植物を観察しながら山頂へ。和やかな昼食の後、茶臼岳へ向かって下山開始。登山道脇で盛んに轟音と共に噴煙を吹き上げる噴気口を間近に火山の説明を聞き、地球の威力に感動した様子。下山中転石に足を捕られながらも、上級生たちは小さいゴミも見落とさずにしっかり拾いながら歩いた。
子どもたちは、それぞれの頑張りに満足げにロッジに帰着。一休みしてカレーとサラダを作った。協力の賜物の美味しい夕食を嬉々として食べる子どもたちの笑顔がまぶしかった。
夜はお楽しみ会、キャンドルサービスと皆で作り上げた出し物で大いに盛り上がった。

3日目　朝食･掃除の後、小枝をカッターナイフで削り目を付けたり色を塗り、人形やエンピツなどのキーホルダーやブローチを創る。家族や先生のお土産にと、熱心に取り組んで1時間で平均1人10個が完成した。
最後に3日間をふりかえって感想を書いて、発表しあう。名残惜しそうに一人一人が修了書を受け取って昼食後、閉会となった。



南月山山頂で楽しい昼食

成果と課題

子どもたちは厳しくも美しい山の自然に大いに感動し、また話したことを素直に受け止めてくれた。水を大切にと食器を紙で拭いて洗うこと、ゴミを減らすために食事を適量とって残さず食べること、山の植物や昆虫の命の大切さを実感して、植物は踏まないように歩き、せっかく捕まえたカブトムシも元の木へ返した。また、お互いを思いやり協力して何事にも前向きに取り組む姿が見うけられ、頼もしく感じた。普段生活の中で、この経験が少しでも生かされることを期待したい。
課題としては参加人数が12名と予想よりはるかに少なかったこと、中学生の参加者が1人もいなかったことである。募集方法を再度見直し検討する必要がある。
また、今回の経験から、活動規模として20名が最適との認識も新たにした。
これらの課題を踏まえさらに工夫をして今後も活動を続けたいと思う。



小枝を使ってブローチ作り

団　体　の　概　要

エベレスト初登頂者ヒラリー卿の「登山者の手で山を守ろう」との呼びかけに応じて、国内外の山岳環境保護を目指すNPO法人。多くの人々、特に青少年に山のすばらしさを伝え、山の自然を守っていくことを目標に活動している。清掃登山、国際交流青少年環境体験登山、ネパールでのりんご植樹、講演会、研究会などを実施。

里山こどもワンダーランド作戦

実施団体名　特定非営利活動法人　つくば環境フォーラム
連　絡　先　〒305-0022　茨城県つくば市吉瀬1876-1つくば文化郷別館203号
TEL:029-863-5151　FAX:029-863-5151
E-mail:tef298@lime.ocn.ne.jp
URL:http://www12.ocn.ne.jp/~tef298/

活動の概要

当団体が環境保全活動を行っている雑木林と谷津田をフィールドに地域の専門家やボランティア指導者とともに、林の手入れ等の環境保全活動、田植え、草取り、稲刈りといった農業体験、雑木林や田んぼの自然観察、森での遊びなどを行っています。

これらの活動を通して、子どもたちに環境保全に関する体験を提供し、豊かな自然を伝えています。

「里山こどもワンダーランド作戦」は、四季折々の自然を、様々な体験活動を通して楽しく学び、自然や環境保全に関する知識や体験を深め、子どもたちが自然とともに成長していくことを目指して行っています。また、子どもたちの興味を出来る限りサポートしていくことを念頭に運営しています。

活動の内容

今回は、四季折々変化していく雑木林や田んぼの自然を体験してほしいと考え、
「第一期」(4月~10月で4回雑木林での活動)
「第二期」(11月~3月で5回雑木林での活動)
「田んぼ編」(5~9月で3回、田んぼでの活動)
を計画し、それぞれ参加者を募集して実施しました。

「第一期」

春夏秋の雑木林の自然観察、8月にはキャンプを実施し、普段なかなか体験することの出来ない夜と早朝の雑木林の観察を行なうことが出来ました。子どもたちは、つくば市で減少の著しいオオムラサキをはじめ、カブトムシやクワガタなど様々な生きものと出会い、手入れされた雑木林に豊富な生きものが棲んでいることを実感したようです。

また、農業体験としてサツマイモ栽培を行ないました。前年度の活動でつくった落ち葉堆肥を畑に運び入れて苗を植え、暑い中草取りを行ない、森と畑のつながりや自然の中での栽培の大変さを実感しました。秋には大きく実ったサツマイモを森で拾った薪で焼き芋にして食べました。一連の活動を通して、自然の恵みを享受する体験ができたと思います。



森の生きもの探し

「第二期」

森の手入れと木を利用することを中心に活動を行ないました。間伐するだけではなく、切った木を活用して森の隠れ家をつくりました。昼食は、森の木を燃料に子どもたちの手で自炊しました。木を適度に切ることで、森が元気になり、生きものもたくさん棲めるようになることを子どもたちに伝え、落ち葉堆肥がカブトムシの幼虫のすみかにもなることを知った子どもたちは、堆肥づくりをとても熱心に取り組んでいました。さらに、ドングリから育てたクヌギ、コナラの苗を植える活動を行いました。子どもたちが植えた場所が、彼らが大人になった時に、立派な雑木林に育ってくれることを願っています。



森の隠れ家完成!

「田んぼ編」

筑波山麓の自然豊かな谷津田で、無農薬のお米づくりを田植え、草取り、収穫の3回活動し、子どもたちは一生懸命に取り組んでいました。特に、子どもたちの目が輝いたのは、田んぼや沢での生きもの探しです。ゲンゴロウやヤゴ、サワガニなどの生きものを見つけるたびに大歓声でした。ホタルとも出会いました。昔ながらのやり方で米づくりを行なっている田んぼだから出会える、豊富な生きものは、自然と共存していくために、子どもの力でもできることがいっぱいあることを、体験を通して理解してくれたように思います。



田んぼの草取り

成果と課題

今回、4回分の活動をまとめて参加募集したことで、子どもはそれぞれの興味にあった活動に自由に参加できました。また、初めて会った子ども同士のコミュニケーションも生まれています。子どもゆめ基金から継続して助成頂き、毎年参加する子どもたちも増え、活動に深みが出ています。より発展した活動をせねばと身が引き締まる思いです。

これまで、遊びや体験を重視して活動を行なってきましたが、今後は子どもたちによる環境保全活動や、環境調査活動としてのウエイトを高め、質の高い活動に発展させていきたいと考えています。

団　体　の　概　要

つくば環境フォーラムは、「自然との共存」をテーマに、地域の環境を見つめ、筑波山や里山の保全活動に取り組み、また、子どもたちへの自然体験活動など環境教育を通して次世代の環境を担う人材育成をめざしています。そして次世代の子どもたちに自然豊かなふるさとを手渡したいと考えています。

野外活動指導者養成講座　2007

実施団体名　特定非営利活動法人　野外教育学修センター魚沼伝習館
連　絡　先　〒949-7235　新潟県南魚沼市荒金283-1
TEL:025-779-5030　FAX:025-779-5030
E-mail:u-denshukan@coral.plala.or.jp
URL:http://www.uonuma-denshukan.com

活動の概要

新潟県魚沼地域は尾瀬国立公園、越後三山国定公園、魚野川そして魚沼産コシヒカリを育てる田園風景それらを囲むように里山が広がり、また冬の豪雪地帯でもあり四季の変化と自然の豊かさなど野外教育活動を行うには絶好のフィールドといえる。しかし、地域住民はこれら資源があまりに日常的であるがために、有効な教育資源とは考えておらず、当然子どもたちに必要な情操教育を育む場としても利用されることが少なく、教育の場として活用する指導者もほとんどいない。

このような状況を踏まえ、自然体験活動、環境教育、冒険教育など野外教育に必要な人材を地域に育て、新たな教育環境を作ることを目的として活動を行った。

活動の内容

テント泊のキャンプに必要な基本技術習得プログラムとしてテントの設営技術、火起こし、野外調理、刃物の使い方などの研修とOJT(On the job training:日常的な業務を遂行しながら、仕事に必要な知識、技能、技術、態度を計画的にレベルアップする)による実習を行った。加えて、危険予知、安全管理に関する講習を実施した。

当地域は信濃川、魚野川、奥只見湖など水辺のフィールドも多くあるが、子どもたちだけでの水遊びを禁止している場合が多い。教育資源としての「川」を有効活用するため、また今年度はカヌー指導者の養成をするため、操船・レスキュー技術の習得と子どもたちのカヌー体験プログラムにおけるOJTを行った。


インタープリテーション研修のひとこま 頭のストレッチ

子どもたちとのコミュニケーション技術を習得するため、インタープリテーション、コミュニケーションゲーム、アイスブレークゲームなどの講習と実技研修を行った。


カヌー研修

成果と課題

指導者育成では、技術と理論を中心に机上研修と実技研修、実際の活動に参加する実習(OJT)などを行っている。最近では確実に指導者の増加が図られ、指導組織が出来つつある。しかし、地域の自然資源を野外教育の場として利用するには、多種多様なスキルが求められるが、すべてを習得するには膨大な時間と経費を要する。今後は、企画・運営などを中心にした指導者、専門技術指導者など分野を分けた指導者養成を行い、指導者組織をネットワーク化していかなければならない。また自然環境の変化への対応として、危険予知などのノウハウの蓄積も必要であると考えている。


実地研修での自然観察の指導を行っている様子

団　体　の　概　要

当NPO法人の青少年育成事業として、保育園児向けの自然体験・創作活動、小中学生を対象にした野外教育活動、小学生を対象に平日の放課後を利用した体験学習活動などを行っている。これら体験活動を通して、子どもたちに主体性、協調性を身に付けさせ、達成意欲、挑戦意欲の向上を図ることを目的に活動を行っている。

キッズワンダークラブ（驚きの実験・観察教室）

実施団体名　社団法人　日本理科教育振興協会
連　絡　先　〒101-0052　千代田区神田小川町3-28昇龍館ビル4F
TEL:03-3294-0715　FAX:03-3294-0716
E-mail:info@japse.or.jp
URL:http://www.japse.or.jp

活動の概要

子どもたちに科学的なものの見方や考え方などの豊かな科学的要素を育成することを目的にスタートした本キッズワンダークラブは、関係者の協力もあって今回で11年目20回目の開催となりました。

開催日は、平成19年7月27日(金)～29日(日)の2泊3日。

開催場所は、(独)国立淡路青少年交流の家。

参加者は、地元兵庫県をはじめ近畿、中四国を中心に、遠くは北海道から、小・中学生78名、保護者17名、教員2名の計97名が集りました。

講師9名、スタッフ15名が、1講演、2観察、4実験を行いました。



特別記念講演:「野鳥も人も地球のなかま」の丸谷 聡・聡子先生のお話

活動の内容

観察A「吹上浜の植物観察」
では、ルーペを用いて吹上浜で見られる植物について説明を受けながら観察を行いました。

実験B「ピンホールウォッチを作って光の不思議を体験しよう」
では、カメラの原理を利用したピンホールウォッチを制作して使いながら、光の直進について学びます。

実験C「葉脈標本のしおり作り」
では、葉っぱに走っている脈を観察するため、葉脈標本を作ります。



実験D「ドライアイスの世界」松村 唯史先生の実験の様子

実験D「ドライアイスの世界」
では、ドライアイスを用いて様々な実験をします。

実験E「化石で遊ぼう!」
では、化石のレプリカを作ったり、化石の埋まった岩石を磨き出して化石を見つけだします。

これら5つのプログラムを3日間で20数名ごとの5グループに分かれて体験しました。

指導は、兵庫県中学校理科のベテラン先生が担当し、グループに対応した指導内容とするなど、臨機応変に指導してもらいました。

夜は、日本野鳥の会の丸谷先生ご夫妻による特別記念講演「野鳥も人も地球のなかま」、星空観察や親睦を深めるゲーム大会を行いました。

また、今回のそれぞれの実験で使用したもののー部や作成したものは、各自が持ち帰ることができるので、夏休みの実験観察の成果にもなります。また、グループは年齢別に編成し、3日間の行動を共にすることから、その中で多くの友人関係が生まれました。



実験C「葉脈標本のしおり作り」増田 和徳先生と様子

成果と課題

小学4年生から毎年参加してくれる子どもや、遠くは北海道や九州から参加してくれる子どももいます。小4から中3までの子どもたちが、全国から集まり、2泊3日の集団宿泊における規則正しい生活、礼儀、あいさつを慣行し、交流を深めるとともに、実験観察を集中的に行う特色ある活動となっています。



星空観察:谷 宣憲先生と月の様子

団　体　の　概　要

当協会は、日本の小、中、高校の学校教育用理科機器、及び関連教材の健全な発達と普及を図るとともに、理科教育にかかる人材育成の観点から各教育機関に支援を行い、科学技術教育の環境整備を推進し、もってわが国が目指す科学技術創造立国の基盤となる教育の振興に寄与することを目的とした文部科学省所管の公益法人です。

一つの生命の始まりを観る！

実施団体名　日本獣医生命科学大学　動物生殖学教室
連　絡　先　〒180-0023　東京都武蔵野市境南町1-7-1
TEL:0422-31-4151(代表)　FAX:0422-33-2094
E-mail:shomu@nvlu.ac.jp
URL:http://www.nvlu.ac.jp/

活動の概要

様々な研究分野の将来の発展を担う若い世代を育てる上で、早い時期に実践的な科学実験を知ってもらうため、①本活動で体験する科学技術が哺乳動物バイオテクノロジーの基礎となることを知り、先端技術を身近に実感して生物科学への興味を抱かせる。②体外で作出・培養した受精卵の遺伝子を調べて性判定することによって化学実験の進め方を知るとともにその楽しさを知る。③哺乳動物の受精卵発生の観察を通して、生き物が巧妙に生み出されることを知ることを目的に実施した。



顕微鏡下で卵子を操作しています

活動の内容

参加者が実験内容を理解し、実験補助員の助けを受けながら各自で作業できるよう、少人数(今回は19人)の高校生に絞り、平成19年12月25日～27日〔いずれも9:00～17:00〕の期間中に次の内容で活動した。購入したブタ卵巣から未受精卵を採取−培養した後、保存した精子を用いて体外で受精させ(受精の瞬間を観る！)、胚発生過程を顕微鏡で観察した。次に発生した胚からDNAを抽出増幅し，電気泳動後に性決定遺伝子の有無から胚の雌雄を判定した。

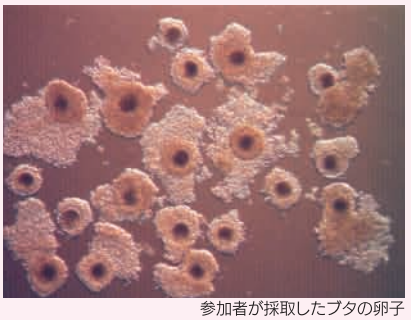


顕微鏡下で卵子を探しています

成果と課題

アンケートには
- 顕微鏡を使った作業で手先だけの細かい作業でうまく行かない上に目も疲れ、とても大変だったが、その分、卵子を見つけたり、卵子の移動や還流がうまくいったときはとてもうれしかった。
- 教科書でしか見たことがない胚や卵子を生でみることができて良かった。
- 手引書を見たときはもっと難しいことをやるのかと不安で、確かにどれも大変な作業でしたが、手助けをしてもらい、結果をみていくことで本当に楽しく学ぶことができた。
- 高校で行ったことよりもさらに発展的なことが出来て感動でした。
- 実験の内容がすごく濃く、普通に生きてれば、一生できてなかったのでは?と思う程すごく、素晴らしい活動に参加できてとても良かった。
- 動物の発生や遺伝の勉強により興味をもって取り組めそう。
- こういう機会があったら、また参加したい。
- 細かい作業が多くて苦労した。
- 将来、動物関係の仕事に就きたく、様々な面からより多くの動物に関連することを経験しておきたかったので、この活動は大変参考になった。
- 実験補助員の方々が常に近くにいて作業を見ていてくださったので、声が届きやすく安心して取り組むことが出来た。

といった感想があった。



参加者が採取したブタの卵子

最初は緊張し、戸惑っていた様子であったが、活動が進むにつれて話を良く聞き、自ら手を動かそうとする参加者の行動力や適応力の高さには感心した。

複雑で実践的な科学実験をわかり易く解説して進められたと思う。さらに、作業時間に余裕をもたせ、失敗しても繰り返し実験できるよう配慮し、参加者全員が想定される結果を得られた。

団　体　の　概　要

学生と教員が一丸となって，哺乳動物の生殖に関わる事象について日々研究している大学の研究室です。

ものづくりを楽しもう

実施団体名　特定非営利活動法人　技術教育教材開発研究会
連　絡　先　〒421-1132　静岡県志太郡岡部町三輪639-22
TEL:054-667-1712
E-mail:ymasuda@msb.biglobe.ne.jp
URL:http://www5a.biglobe.ne.jp/~yma77733/

活動の概要

様々なものづくりの機会を提供するとともに、観察、実験、実習等の体験的・問題解決的な活動を行いものづくりの楽しさやその重要性を認識してもらうことを通して、ものづくり文化の発展、子どもたちの科学技術・ものづくりに対する興味・関心と知的探求心を育成することを目的とした実践を行っている。



ぼくのロボット動くかな

活動の内容

ものづくりは科学的知識と技術・技能の総合化であり、理科教育と切り離すことはできない。科学の応用としての技術を、実際の「もの」として具体化する能力が技能と考えられる。ものづくりの過程で試行錯誤をくり返すが、様々な実験や実習によりその理解を確かめていく。

具体的には、系統的な原理・法則をものづくりに発展させる方法、ものづくりを通して得た感動と喜び、探求心をもって原理・法則を体験的に理解する方法がある。これらの方法を融合させたプログラムが子どもたちの真の学力の習得につながるものと考えている。今回のプログラムは、4つのテーマを企画した。



さあ、いい音出してよね

「手づくり磁石をつくろう」:

磁石の磁力は目に見えないため、そのイメージを把握することは子どもたちにとって難しいことから、手づくり磁石を作る内容とした。子どもたちは、焼結した無磁化セラミックスが磁化装置の中で磁化される現象を目のあたりにし、磁力に対する新しいイメージを持つとともに、創造的思考力が生れ、磁石への興味関心が高まる。

「ペットボトルを歩かせよう」:

これはペットボトルロボットの本体の重心の移動による回転力(揺動運動)を応用した原理を用いている。子どもたちはこのような簡単な仕組みでロボットが動くことに大変驚いていた。そして、製作したロボットの原理を理解し、ものづくりの楽しさ、喜びを感じることができる。

「音の出る鉛筆立てをつくろう」:

ビー玉を入れて動かすと、カラコロ、カラコロと木のぬくもりを感ずるいい音を出す鉛筆立てを製作した。鉛筆立てはお店で買うことができるが、けがきの段階から自分でつくったものは、子どもたちにとり世界でただ一つのものであり、非常に愛着の深いものである。自分で設計し、これまでに得た木材の加工技術を使って癒しの音を出すものづくりは、生涯忘れることのない貴重な体験になっただろう。

「磁気ライントレースカーをつくろう」:

磁気トレースカーは、床面に埋め込まれた磁石の列をトレースして走行するロボットカーである。ある対象を思い通りに動作させるには、対象を制御する必要がある。制御するために信号を検知して駆動源に命令を与えるシステムを解りやすく理解できる内容とした。磁気ラインを検出するセンサーに磁力で接点をオン・オフするリードスイッチを使用するため簡単に設計ができ、身近な磁石を理解しその応用が学べる特徴がある。



しっかりトレースするかな

成果と課題

各講座では、ものづくりを通して得た感動と喜びの原体験から原理・法則を理解する方法と、系統的な原理・法則を理解した上で行うものづくりをベースに行った。学習過程でつまずきの多い子どもであっても、ものづくりの完成に当たっては、驚き、喜び、感動している姿が見受けられた。実践内容が“動く、回る、歩く”など子どもたちの感性に訴えるものであるためであろう。

団　体　の　概　要

近年、日本における「ものづくり」文化が衰退し、将来が危惧されるが、その原因の一つに、小・中学校におけるものづくり教育の時間が削減されたことがある。理工離れ、ものづくり離れがいわれるが、子どもたちは決してものづくりが嫌いなのではない。ものづくりの環境が少なくなっている。私たちは開発した教材・教具を活用して、子どもたちにものづくりの素晴らしさ、楽しさを伝える活動を行っている。

第2回 ちがさき宇宙記念日－宇宙と科学を体験しよう!－

実施団体名　ちがさき宇宙記念日実行委員会
連　絡　先　〒253-0043　神奈川県茅ヶ崎市元町4-33-401
TEL:0467-84-4161　FAX:0467-84-4162
E-mail:espoir-c@h8.dion.ne.jp

活動の概要

茅ヶ崎市ゆかりのJAXA宇宙飛行士野口聡一さんが、STS-114のミッションスペシャリストとして活躍され、宇宙から無事に帰還した日を記念して制定された記念日に実施する事業です。

茅ヶ崎市にゆかりのある宇宙飛行士は土井隆雄さんもいます。より宇宙を身近に感じてもらいながら、科学の夢と興味を育むことを目的としています。



宇宙飛行士体験プログラム講義風景

活動の内容

小、中、高校生を対象に以下のプログラムを実施しました。

A JAXA有人宇宙技術部 山方 健士氏による「宇宙飛行士体験プログラム」

実際の宇宙飛行士の訓練を映像で紹介したり、実際の訓練を体験してもらいました。

B「国立ハワイ天文台とのテレビ会議」

ハワイの天文台とライブで結び、子どもからの質問に天文台職員の方が直接答えたり、天文台の仕事内容を学習しました。


二人の宇宙飛行士の展示コーナー風景

「キュリー夫人の科学実験ショー」

キュリー夫人が100年前に子どもたちに教えていた実験教室を再現して、主に真空や空気について学びました。

子どもたちはプログラム終了後、宇宙食の試食を体験しました。

また、入場フリーの展示スペースを設け、宇宙飛行士の訓練の様子や現在の宇宙開発の状況を誰でも学べるよう工夫しました。

より多くの子どもに体験してもらうためできるだけ参加型とし、展示は見るだけでなくさわり、試し、味わえるものとしました。

成果と課題

宇宙食の試食は、6社から1000食分の提供と、展示用サンプル、ポスターの貸し出しの協力をいただきました。

また、活動経費の不足分は地元のロータリークラブ、ライオンズクラブよりの寄付金で賄いましたが、各団体へのお願いにあたる際の企画書に「子どもゆめ基金」の助成活動と記載したことで、他の組織の協力を得やすかったり、参加する側への信用度も上がっていたようです。これは財政面だけではない大きなメリットであったと思います。

また、活動名に「第○回」と入れることで、夏休み中の記念日として定着してきつつあり、期待度が高まってきています。

今年の3月に土井さんが2度目の宇宙飛行で活躍され、来年の末から野口さんの2度目の飛行計画があります。今後、ますます、宇宙への夢をふくらませるチャンスをとらえ、宇宙をきっかけとして環境問題にも取り組んで行きたいと考えています。


無重力体験グローブを装着しての作業体験コーナー

団 体 の 概 要

茅ヶ崎市にゆかりのある2人の宇宙飛行士を応援することで、子どもを中心とした市民に宇宙への夢や科学への興味を育ませることを目的とする市民活動団体です。市の「宇宙飛行士展示コーナー」という施設を中心として、市と協働し年間をとおして「宇宙教室」の開催や展示の充実を図っています。

じいちゃんとばあちゃんと遊ぼう

実施団体名　特定非営利活動法人　BIG TREE

連　絡　先　〒600-8018　京都市下京区河原町通仏光寺上ル市之町250 タキイビルコーチングラボウエスト内
TEL:075-354-9228　FAX:075-354-9226
E-mail:bigtree@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL:http://big-tree.net

活動の概要

核家族化が進む中で、子どもたちが地域のおじいちゃん、おばあちゃんと触れ合う機会は、確実に減っています。

『無償の愛』を持つおじいちゃんやおばあちゃんと自然なかたちで触れ合うことは、子どもたちが成長していく上でとても重要なことです。

この活動では、一方的にお年寄りが子どもに何かを教えるのではなく、子どもたちと一緒になって遊ぶなどの、共通の体験を通じて、より深く関わり、交流することを目的としました。



出会いのパーティ

活動の内容

●第1回　『出会いのパーティ』

（7/7）子ども20人　大人7人

顔合わせをかねた食事会。昼食は、豚汁と竹ご飯を作りました。竹ご飯は、のこぎりで竹を切り、その中に米と具を入れて火で炊きました。午後からは、日本の遊び協会会長中村さんにお願いし昔なつかしの伝承遊び（竹馬・こま・おじゃみ・縄跳び・ベエゴマなど）を行いました。

●第2回　『カヌーで遊ぼう!』

（9/1）子ども13人　大人8人

琵琶湖でカヌーをしました。午前中は、一人乗りのカヌーで練習をして、午後からは、おじいちゃん、おばあちゃんとペアで二人乗りのカヌーに乗ってツーリング。天気もよく、気持ちよかったです。



カヌーで遊ぼう

●第3回　『土で遊ぼう!』

（10/13）子ども15人　大人4人

土をこねて土器づくりをしました。上手に作ることより、感じたまま自由にカタチを作りました。土をこねるのは、結構楽しくて集中して作業をしていたら時間は、あっという間にすぎました。



土器づくり

●第4回　『野焼きパーティ』

子ども16人　大人4人

10月に作った土器を焚き火で焼きました。焼いている間に、カレーを作って昼食を食べ、そして、瞑想タイム。最後に、火から土器を取り出しました。完成した土器にみんな大満足でした。



野焼き

成果と課題

大人も子どもも一緒に遊ぶためには、どのような仕掛けが必要か？それは、大人にとっても子どもにとってもどちらにとっても楽しい、夢中になれる遊びであること。強制されないこと。自由度を高くして、「～しなければならない」ではなく、「～したい」と自然に思えるような『場』を作ること。これらのことに留意して活動を行い、今回は、同じ土俵で遊ぶことを達成することができました。しかし、残念だったのは、おじいちゃん、おばあちゃんの参加が少なかったことです。おじいちゃん、おばあちゃんへの広報は今後の課題です。

今回の企画を実施する上で、同じ活動趣旨を持つ、NPO法人フォーラムひこばえと共催で行ったことにより、他団体とどのようにネットワークを組んで企画を実施していくかのノウハウづくりや、団体の活動の幅の拡大を図ることができました。

団　体　の　概　要

障害のある人とない人、高齢者、子どもとが集い、共に遊ぶことでお互いの理解を深めていくことのできる交流の場と、知的障害のある人が、遊びを通じて、新たな可能性を拡げることのできる“場”の提供をしていくことを目的に活動しています。

しまなみ交流キャンプ

実施団体名　特定非営利活動法人　豊中市青少年野外活動協会
連　絡　先　〒561-0858　大阪府豊中市服部西町4-13-1（市立青年の家いぶき内）
TEL:06-6866-3032　FAX:06-6866-3032
E-mail:jimu@yakyo.com
URL:http://www.yakyo.com

活動の概要

瀬戸内海に浮かぶ島、愛媛県の大三島で、大阪の中学生と、その島の地元中学生とが3泊4日の間、様々なプログラムを通して交流し、友情を深めていきます。思春期の多感な中学生が、交流することにより、互いに刺激し合い、生活環境の違いや、それぞれの価値観の違いを認め合い、友情や社会性が育まれます。加えて、都会育ちの子どもたちが普段の生活では意識することが少ない自然への関心を喚起することもねらいとしています。



“こっち、こっち”、割れるかなぁー

活動の内容

この事業は、子どもたちをキャンプに連れていくというだけではありません。地元の子どもたちと交流を深めるには、大三島の方々の協力が不可欠です。そのため、電話での連絡調整はもちろんのこと、事前の下見を兼ねた現地での打ち合わせも数回行いました。

また、大阪の子どもたちを対象とした説明会に加え、現地の大三島の子どもたちを対象とした説明会を実施しました。大学生の年代は島を出ているので、大三島の子どもたちにとって、引率の大学生リーダーたちとのふれあいは新鮮で珍しく、刺激的であったと思います。

不安と期待に胸を膨らませて迎えた本番当日は、4日間とも天気に恵まれ、予定していたプログラムをすべて実施することができました。大阪を出発して約4時間、中国自動車道、山陽自動車道、しまなみ海道と乗り継ぎ大三島の自然の家に到着すると、黒く日焼けした地元の中学生が迎えてくれました。

1日目は、大阪の子どもたちも地元の子どもたちも初対面なので、さすがに緊張している様子。自己紹介、ゲームなどのアイスブレイクを行いました。野外炊事でカレーを作る頃には初日にも関わらず、すっかり、緊張はほぐれ、誰が大阪の子どもなのか、誰が地元の子どもなのか、わからないぐらい交わっていました。夜には、子どもたちからの提案による肝試し大会で大いに盛り上がりました。

2日目は、子どもたちが楽しみにしていた海でのプログラムです。バナナボート、カヌー、水上スキーを体験しました。中でも、水上スキーが一番人気で、初体験の子どもたちがみんな、立てるようになるまで必死にチャレンジしていました。夜は、満天の星の下でのキャンプファイヤーで大いに盛り上がりました。その後、子どもたちは都会では見ることができない、落ちてきそうなくらいのたくさんの星に感激していました。

3日目は、4つのグループに分かれて大三島のサイクリングです。途中の海岸で貝殻を拾い、持ち帰って貝殻を飾った写真たてを作りました。最後



満天の星の下でのキャンプファイヤー



楽しかった4日間の思いを胸に多くの友達との別れ

の夜はバーベキューで盛り上がったあと、キャンドルファイヤーではひとりひとりが感想を述べていました。このころになると、方言がお互いに移り、大阪の子どもは変な愛媛弁、地元の子どもは変な大阪弁をしゃべるようになっていました。こんなところに交流の成果がでているのかと、微笑ましく思いました。

いよいよ最後の日、4日目は、ひとりに一枚の色紙を配り、交換日記ならぬ交換色紙をつくりました。お互いに思い出とメッセージをいっぱい詰め込んだ色紙を交換し、大阪の子どもたちはフェリーに乗船。紙テープの端と端とをお互いに握りしめたまま、いつまでも、いつまでも手を振っていました。

成果と課題

大三島の子どもたちの素直さや、やさしさが連鎖して大阪の子どもたちにも自然と伝わり、誰とでも会話が弾んでいく。海や緑が近くにある大三島の子どもたちと都会っ子の大阪の子どもたちとの交流は、参加者全員にとって、忘れられない出会いと経験になったと思います。

交流事業は、打上げ花火のようではなく、線香花火のように細々でも継続することに意義があると思います。いかに、継続していくかが、今後の課題です。

団　体　の　概　要

昭和40年に創設された当協会は『自然を愛する心　子どもを愛する心』を大切にして青少年の健全育成と野外活動振興のために幅広い活動をしています。キャンプ・スキー・サイクリングなど、豊かな自然の中での得がたい生活体験、社会性を養う仲間づくりなどのプログラムを企画・実施し、子どもたちがそれらをとおして様々な体験ができるようにと考えています。平成17年からは野外活動等関連施設の管理運営事業も行っています。

三世代触れ合いテニス交流体験2007

実施団体名　特定非営利活動法人　日本スポーツ振興協会
連　絡　先　〒305-0043　つくば市大角豆1744
TEL:029-858-3122
E-mail:info@jspi.org
URL:http://www.jspi.org

活動の概要

地域での世代間交流や、親子での触れ合いの時間が少なくなっている現代において、子どもを中心とした三世代交流を図るための事業。世代間交流を通して、家族や異世代の人たちと一緒に汗を流す楽しさを実感し、絆を深めることを目的としています。また、活動を補助する高校生のボランティアたちが地域での人と人との触れ合いの素晴らしさを実感してもらいたいと考えています。



チームで協力するぞ

活動の内容

世界的に有名なテニスプレーヤー佐藤直子氏をメイン講師に迎えたテニス交流です。プログラムとしては、くまちゃんパンダちゃんの口にフリスビーやボールを投げ入れたり、ぬいぐるみをテニスラケットでトスし合うなど遊び的要素を取り入れた運動能力開発プログラムとなっています。ただし、その動きはテニスのストロークのフォームを練習するものであるなど、実はテニスの動きを再現したものなのです。子どもたちは遊びながらテニスを体験できるようになっていて、自然とテニスが上手になるのが特徴です。



皆で協力してテニスカーリング

または、三世代が協力して行う内容にプログラムがなっており、自然とお互いに触れ合う機会が増えることにより交流が深まります。プログラムの最後には、教室が楽しめたのは、三世代がふれあいそれぞれがお互いに支え合えたからであると認識し、お互いの目を見ながら「ありがとう」と感謝し、拍手を送り合うという時間を設けました。

成果と課題

三世代それぞれの体験を通して様々な成果を得ています。まず子どもたちからは「楽しかった。テニスが好きになった。お兄さんお姉さんと仲良くなった。お父さんがかっこよかった」などの子どもの声やご家族からは、プログラム中、移動の際には親子で手をつなぐことになっているが、「久しぶりに子どもと手をつなげて嬉しかった。目を見てありがとうと言われたのもよかった」といった声が寄せられています。親子間の触れ合いも、想像以上に少なくなっている現実を実感しています。その活動を通して家族の絆を深める触れ合いのきっかけづくりになっていることは成果の一つです。



三世代触れ合いボレー



直子さんとテニス

また、ボランティアとしてがんばる高校生に対して、あたたかい声掛けの場面も見受けられ、高校生たちにとっても自分たちが地域で活躍できる存在であり、人の役に立てる喜びを体験できる良い機会となっているようです。

今後は、子どもたちが成長し、次はこういった地域活動を補助する側になってほしいと思っています。地域での他世代間交流が時間の経過とともにつながりを太くしていけるよう頑張ります。

団　体　の　概　要

「子どもたちに夢を」をスローガンにスポーツを通した地域貢献を目指しています。

テニス・サッカー・ウォーキングなどはもちろんのこと、車イス利用者と健常者のミックステニス体験会や海外にスポーツ用品を送るボランティアなど、幅広い企画を通し、「スポーツをする・観る・支える」といった様々な機会を提供しています。

異文化体験「食べる。交わる。学びあう。」
タイを知り、タイ料理をタイ人から習おう、みんなで話そう。

実施団体名　横浜市青年団体連絡協議会
連　絡　先　〒231-0013　横浜市中区住吉町4-42-1　横浜市青少年育成センター内
TEL:045-662-7348
E-mail:yokohama@shiseiren.com
URL:URL:http://yokohama.shiseiren.com

活動の概要

私たちの日常生活を見るとあらゆる面で外国とかかわりを持っている。在住の外国人も身近におり、異文化に接する機会も増えている。子どもたちが国際化された社会の中で異文化に関心を持ち、国際理解を深めるために各国の食文化である料理づくりを体験する。「食べる」ことを通して、そこから外国の文化、生活習慣などを学び、興味と理解を深め、あわせて参加者の交流を図ることを目的として活動を行った。



タイって国知っている?

活動の内容

実施時期　第1回6月23日(土)
　　第2回8月　4日(土)
活動場所　横浜市青少年交流センター
<プログラム>
(午前)
・オリエンテーション
・講義　「タイって国知ってる。」
・グループ別活動　タイ料理をつくろう。(タイ料理実習)
(午後)
・昼食を兼ねて作ったタイ料理を食べよう。タイ人から話を聞こう。質問しよう。
・全体会　レクレーションを楽しもう。今日の体験を話そう。



みんなでタイ料理を作る

成果と課題

街には外国料理のレストランはたくさんあるが、参加した子どもたちにとってタイ料理は未知の世界であった。タイ料理の講師からの説明を聞き、初めて見るタイ料理の食材や調味料に戸惑いながら料理を完成させていた。

その後、自分たちで作った料理を食べながら、感想を述べたり、タイ料理やタイの学校生活などについてサポーターのタイ人に質問するなどタイ料理を通して話題が広がり、タイについてたくさんのことを知る契機となったと思う。

子どもの感想に「初めてのタイ料理は辛くて不思議な味がした。料理だけでなくタイについてたくさん知ることができた。」とあるように、子どもたちにとって単なるタイ料理づくりの体験だけで終わることなく、今回の料理づくりを通して外国への関心が広がり、その国の生活や文化について学ぶ機会となるとともに、異文化理解、さらに国際理解が深まった。

また、協力したボランティアにとっても、タイ料理の講師から料理づくりや指導方法を学び、子どもたちへのサポートを通してボランティアのリーダーとしての役割を学ぶことができた。



みんなで作ったタイ料理



ちょっと辛いね。タイ料理を食べる

団　体　の　概　要

当団体は青年団体の支援、ボランティアの育成、青少年の健全育成を図る事業を推進している。国際交流活動、国内他都市の青少年交流、キャンプ、スキーなどの事業、各種講座やイベントの開催など、ボランティアとともに幅広い活動を展開している。国際交流活動のひとつであるタイの青少年団体との相互交流は30年以上継続しており、両国の青少年交流や文化交流を通して理解と交流の輪が広がっている。

ドリームスクール2007

実施団体名　ドリームスクール実行委員会
連　絡　先　〒745-0825　周南市秋月1-2-3
TEL:090-4698-5731　FAX:0834-29-1528
E-mail:toshiaki@ccsnet.ne.jp

活動の概要

ドリームスクールは、職業体験やものづくりを通じて、人との出会いや地域社会との関わりの中で、自分の好きなこと、興味のあることに挑戦する子どもたちを応援する体験学習講座です。ドリームスクールの対象は、小学4年生から中学3年生で、夏休み期間中に実施する約30講座の中から、やってみたい講座を選んで申し込みます。人気の講座は、抽選で受講者を選びますが、平成19年度は、31講座に延べ421名が申し込み、255名が受講しました。

活動の内容

ドリームスクールは、職業体験講座とものづくり体験講座があります。また、内容によっては、実際の職場や事業所で体験する講座もあります。

平成19年度は、7月22日(日)から7月29日(日)の8日間に31講座を実施しました。講座内容によっては、子どもの知識や技術では、難しい講座もあります。参加した子どもたちの「上手にできた!」という気持ちも大切にしていますが、「上手にできなかった」「失敗した」という気持ちも大切にする講座運営に心がけています。指導者の技術を見て、「すごいなあ!」と感じ、「自分もいつかできるようになりたい!」と感じてもらえるドリームスクールを目指しています。


特産品店の販売体験


シュガークラフト体験

・職業体験講座

カメラマンやレポーター体験、特産品店の販売体験、結婚式場での仕事体験、新聞記者体験など、どれも人気のある講座です。職業体験講座は、それぞれのお店や事業所で実施するため、参加人数が制限されますが、実際の現場の雰囲気の中で、様々な仕事を体験することができ、子どものまなざしも真剣です。それぞれのプロフェッショナルとの出会いは、自分の将来や職業を考えるきっかけとしても役立っているようです。

・ものづくり体験講座

万華鏡づくり、手芸、シュガークラフト、科学実験、CGアニメ・ムービー体験、料理など多種多様なものづくり講座を実施しています。受講したければ、何講座でも受講でき、2講座以上を受講する子どもも多くいます。また、毎年、同じ講座を受講する子どもや、ドリームスクールを通じて仲良くなった子どもたちもいます。ものづくりを通じて、子ども同士、子どもと指導者の交流やふれあいを大切に、子どもと同じ目線で取り組んでいます。

成果と課題

ドリームスクールに関わる指導者、ボランティアスタッフは、青少年教育を担う地域の人材として、学校や地域活動でも活躍しています。また、過去に受講した子どもたちが高校生、大学生ボランティアとしてドリームスクールに参加するなど、事業継続の効果が様々な形で表われています。しかし、運営面では、人気講座に受講申し込みが殺到し、受講したくても受講できない講座もあり、受講者の募集や抽選には大変苦労しています。

また、保護者にもボランティアスタッフとしての参加をよびかけ、運営体制を強化することも今後の課題です。


カメラマン&レポーター体験

団　体　の　概　要

平成14年度からの完全学校週5日制実施を契機に、ドリームスクール実行委員会が発足しました。毎年夏休みに職業体験やものづくり体験講座を約30講座開催しています。平成19年度で6回目を迎え、参加した子どもは、延べ2,365名になりました。

東京都内子ども食育・農業体験活動

実施団体名　特定非営利活動法人　畑の教室
連　絡　先　〒178-0062　東京都練馬区大泉町1-44-14
TEL:03-3922-6022
URL:http://www.hatakenokyoshitsu.org/index.shtm

活動の概要

最近、食べものがどのようにつくられているか知らない子どもたちが増えています。そこで、東京都内在住の子どもたちに、農業体験をとおして食についての関心を高めてもらうとともに、地域の歴史や文化についてや、命あるものを摂取することによって人の命があり、命の大切さについて学んでもらいたいという思いで活動を行いました。

練馬区・西東京市の農家18件の協力をえて、練馬大根の種まきから収穫までの体験・小麦の刈り取り体験から製粉、うどん作り体験・都内唯一残る牧場での酪農体験を行いました。



親子でうどん作り体験

活動の内容

1. 小麦生産体験

（参加人数　子ども・77 名、大人・69名）

6月に小麦を収穫し、石臼で粉ひき、専門家の指導でうどん作り体験や、農家のおやつとして食べていた「たらし焼き」作りと農家のおじいさんから昔話を聞く会などを開催しました。

2. 練馬大根生産体験

（参加人数　子ども・249名、大人・144名）

練馬区・西東京市の農家18件の協力のもと、練馬大根の生産体験を行いました。各農家が10～15組の親子を受け入れ、9月に種まき、10月に間引き、11月に収穫体験を行い、まとめとして「練馬大根のお話しと漬物教室」を開催しました。



練馬大根種まき指導

3. 東京都内親子酪農体験

（参加人数　子ども・68名、大人・44 名）

23区内唯一残る小泉牧場で、区内児童施設・保育園などで公募し、8月と1月に親子酪農体験を実施しました。畜舎見学・餌やり体験と糞尿処理・搾乳体験と牛のブラシ掛け・酪農家の話しを聞く会・バターづくり体験のあとジャガイモにバターをぬって食べる等の活動を行いました。「牛は命をけずってお乳を出しているんだよ。」という酪農家のお話が印象的でした。



酪農体験　みんなに説明

成果と課題

多くの協力者のもと、都内在住のたくさんの子どもたちが農業にふれる体験が出来ました。特に、親子で参加してもらうことにより、親も食に関する意識に変化がみえたこと、親子で考える機会になったことなどが成果としてあげられます。

また、体験の導入や内容、体験から学びに結びつけるためのプログラムの充実、農家の指導力に差があったことなど、いくつかの課題が残りましたが、今後も子どもゆめ基金や各方面からのご指導のもと、よりよい活動につなげたいと思います。



練馬大根収穫

団　体　の　概　要

平成15年8月、練馬区内農家及び学識経験者、区内在住者などにより設立。農業や自然体験を通して、子どもたちの食育（教育）、生涯学習、福祉、余暇の楽しみや文化の継承など、農業のもつ多面的な機能を役立て、地域の発展と生活する人びとの豊かな暮らしの実現に寄与することを目的として活動しています。

ぼくだって　できるんだ　2007

実施団体名　特定非営利活動法人　日本ホスピタル･クラウン協会
連　絡　先　〒453-0804　愛知県名古屋市中村区黄金通3-27-1
TEL:052-483-7789　FAX:052-483-7774
E-mail:info@hospital-clown.jp
URL:http://www.hospital-clown.jp

活動の概要

通常私たちは、団体の活動として多くの病院を隔週で訪問しています。大阪の女医さんがこんなお話をしてくれました。「病院を街と考えて欲しい。その中に子供が住んでいる。そして子どもはそこで成長している。」

また、ある院内保育士さんからは、「長期療養をしている子どもは7掛けです。」つまり、全てではないにしろ、発育発達が遅れる傾向があるということを聞きました。

クラウンとは道化師。サーカスの中の脇役で、主役を盛り立てることが得意です。子ども達を主役にし、彼らの想像性を膨らまし、能動性を引き出し、さらに社会性を広げてあげることができたら。そんな想いで、この事業に取り組みました。



マジックバルーン

活動の内容

入院中の子どもを対象に募集したところ、継続的に参加できる子どもが手を上げました。悩みを抱える子どもも多く、彼らに対してこの活動がよい方向に働いてくれることは、とても嬉しいことです。私たちは子どもたちと真剣に向き合いました。

通常はクラウンが作ってプレゼントするマジックバルーンを、子どもたちはその小さな手で、おっかなびっくり作ります。時間はかかるし、キリンのような犬、後ろ足が短い犬、尻尾が体の2倍もある犬、不細工な犬が出来上がりました。でも、はじめて自分で作った風船の犬を見て、彼らは本当に嬉しそうでした。

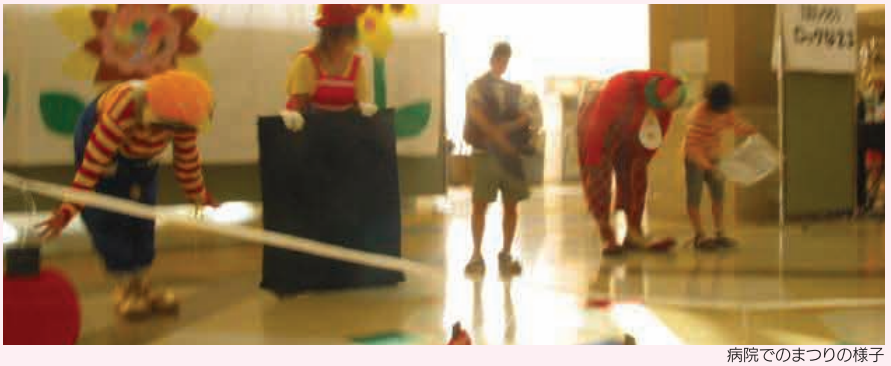
マジックの時間は、物理や化学を応用し、理科の実践の場になりました。また、手先のトレーニングにもなります。いつも不思議に思っていたことの原理･原則を知ったときの満足気な顔は道具を手にして、いろいろな角度から検証していく小さな科学者が生まれた瞬間を物語っていました。初めてのことに取り組む不安と、日頃抱えている不安を共有している子どもたちが、自然にお互いを気遣い、助け合う姿も見受けられました。

成果と課題

病院に入院している子どもたちは基本受動的です。点滴･検査･手術、何時に寝なさい、この薬を飲みなさいという言葉に対して、何か口をはさむ余裕などありません。そして、だんだん受身になっていくと、誰かのために何かをしてあげることができなくなっていく。その喜びを忘れていってしまいます。

ここで一番大切なことは、彼らが主役であるということ。彼らは、今まで見ているだけのパフォーマンスを、今度は自分が見せる側に回ることの素晴らしさに気付いていきました。子どもたちの最後の活動は発表です。手作りのチラシを院内に回し、観客は看護師さんやお医者さん、保護者や兄弟が中心で、そんなに多くはないですが、お客さんを前に子どもたちは緊張していました。私達クラウン（道化師）も万が一のための準備をして、一緒にステージに上がれるようにスタンバイしています。大きなステージが用意され、そのステージに上り、プロの立ち位置よりも随分奥目に立つと、たどたどしくも立派にショーをしてくれました。拍手を受ける彼らは少し大きくなって見えました。

ステージから降りてきて、ホッと息をつき、素晴らしい表情で誇らしげな顔を上げクラウンとハイタッチする子どもたち。私たちも彼らからたくさんのものをいただいたことに気付き、感謝しました。



病院でのまつりの様子

団　体　の　概　要

入院中のこどもたちに、笑いと笑顔、そして病院では味わえない新鮮な「外の風」を届けたいと設立。
中部地区を中心に北海道から鹿児島まで全国の病院で隔週月2回の定期訪問を基本として活動しています。

我ら落書き防止隊

実施団体名　千葉県市原市青少年育成ちはら台地区民会議
連　絡　先　〒290-0142　千葉県市原市ちはら台南1－7－13
TEL:0436-75-6164　FAX:0436-75-6164
E-mail:fukano@mable.ocn.ne.jp

活動の概要

工場地帯の京葉コンビナートと関東の紅葉の名所、養老渓谷がある市原市。その北部の新興住宅地であるちはら台は、他の地域と同様落書きに悩まされてきました。とあるTV番組で「先に壁画のあるところには落書きが少ない」との放送を見て、地域でも何か出来ないかを検討してきました。

そこで、落書きの対象となりやすい地域内遊歩道などの陸橋コンクリート橋脚に中学生による「壁画」を作成したらどうかという提案があり、これを行うことで中学校生徒の、

①地域への貢献活動
②地域への愛着と誇りの醸成
③創造力の発揮と協力･団結心の涵養

を図ることを目的に「我ら落書き防止隊」活動を開始しました。


下書き作成中

活動の内容

主となる活動日
平成19年8月4日(土)、5日(日)の2日間

活動対象者
市原市立ちはら台南中学校生徒(美術部員を中心)


下書き作成風景

事前活動
「壁画」の原画作成(中学校生徒)

協力者
市原市塗装協同組合
(ボランティア活動)

1日目は、事前に壁面の清掃と下塗りの終わったところへ下書きを作成し、2日目は、自分たちで作成した原画を元とした壁画作成(ペンキ塗装)を行いました。

片側2車線に面した歩道での作業であり、歩行者への安全配慮をはじめ、足場上での生徒の安全などを我々「市原市青少年育成ちはら台地区民会議」メンバーと「市原市塗装協同組合」メンバーが共同して実施しました。


塗装組合のボランティアの皆さんと･･･


壁画作成中

成果と課題

事前の「壁画－原画作成」では、中学校生徒の創造性の高揚になりました。また、実際の「壁画」作成では、同僚との協力･協調性並びに地域の人や塗装組合の皆さんとのふれあいの中で、中学校生徒たちに共同作業による協力の大切さが涵養できたものと考えています。

特に、参加した子どもたちからは『地域に貢献できる活動が出来てよかった』、『壁画はやってみたかったが機会がなかった』、『色々な大人たちとふれあいが出来た』との意見がありました。

この活動は今回初めて企画した活動であり、事前準備不足(地域へのPR活動など)や当日の不備(保護者との意思疎通不足)などがありましたが、今回の開催を契機に、蓄積された諸課題を今後の活動の中に活かしてゆきたいと考えています。また、地域には同様の壁面が多くあります。今年度は、「春」をイメージした「壁画」を作成しましたが、今後は、春に続き「夏･秋･冬」を題材にした壁画の作成をしたいと思います。

団　体　の　概　要

当団体は、平成14年に、ちはら台における青少年(対象は小学生･中学生)の健全な育成を行うため結成しました。地域の青少年活動に関わる諸団体のメンバーで構成されており、小･中学校の児童･生徒健全育成について、地域で最大のネットワークを得て活動を展開しております。

小学生向けボランティア体験講座「きみにもきっとできるよ!ボランティア」

実施団体名　ぼらんぽセンター・コンソーシアム

連　絡　先　〒453-0021　愛知県名古屋市中村区松原町1-24　COMBi本陣N206（名古屋NGOセンター気付）
TEL:090-5622-3698　FAX:052-483-6801
E-mail:n-vnpo@boramimi.com

活動の概要

この活動は、小学5・6年生向けのボランティア体験講座として実施しました。

地域社会の課題解決のために、自発的・自主的に、見返りを求めずに取組む人たちの活動がボランティアです。ボランティアは、その目的を達成するため、皆で力を合わせて取り組むことに楽しさがあります。また、小学生も地域の一員として、大人と一緒になって地域に参画する機会が得られることで、家庭や学校ではできない経験をすることができます。

子どもたちがボランティアを実際に体験することで、「私にできること」「ひとの役に立てること」に気づき、自己肯定感が高まるようにと願い、この講座を企画しました。



利用者さんから昔の遊びを教えてもらいました

活動の内容

小学生にとっても身近な課題である「環境」「国際理解」「福祉」の3つの分野について、ボランティア体験を行いました。体験先は、活動の目的が明確であり、ボランティアスタッフが活動の中心を担っている団体に協力をお願いしました。また、ボランティアの精神は『教える』のではなく、体験と感動を共有する中で伝わると考えました。そこで、2005年愛・地球博で子どものボランティア活動をサポートした若者グループ「ユースサークル y-en」に企画段階から協力いただき、導入・ふりかえりのワークショップの進行や、ボランティア体験の付き添いを担当してもらいました。



農作業を通じた国際理解ボランティア体験

【一日目】
「ボランティアって何だろう」

カードを使い「これはボランティアだろうか」「それはなぜか」を、皆で話し合いました。同時に保護者向け講座「子どものボランティア活動をどう支援するか」を開催しました。



資源回収のボランティア体験

【二日目】
「やってみよう!ボランティア」

3つの中から関心のある分野を選び、y-enのメンバーと共に活動をしました。

(1)環境コース

リサイクルステーションで資源の分別回収のお手伝い。（受入団体：NPO法人中部リサイクル運動市民の会）

(2)国際理解コース

難民になり、愛知県で暮らす在日ビルマ（ミャンマー）人と農作業。一緒にビルマの野菜を収穫し、料理して食べました。（受入団体：多文化共生サークルsmile）

(3)福祉コース

宅老所にでかけ、お年寄りから昔の遊びを習ったり、戦争の時の話を聞いたりしました。（受入団体：瑞穂デイセンター：えんがわ）



ボランティア体験のふりかえり

【三日目】
「レッツ　ボランティア宣言」

二日間をふりかえり、これからどんなボランティアをやっていきたいのかを、みんなの前で発表しました。保護者も子どもを応援できることについて発表しました。子どもたちには、「みんなのために何かすることはとてもたのしい!」「ボランティアは自分のためでもある」という発見があったようです。

成果と課題

身近な地域の課題に目をむけ、自分で何ができるか考えている小学生に出会うことができ、ボランティア体験の機会を提供する意義を見出すことができました。子どもの目線に立って話をしっかり聴いてくれる、若者グループの存在の大きさも確認できました。

また、課題としては、小学5・6年生は塾や部活で忙しいため、夏休みの短期集中ではなく、月1回のような年間通したプログラムにするなど、参加しやすくする工夫が必要だと考えています。

団　体　の　概　要

当団体は、ボランタリーネイバーズ、名古屋NGOセンター、ボラみみより情報局のNPO法人3団体で構成されています。2008年3月まで、名古屋市の「なごやボランティア・NPOセンター」指定管理者として、ボランティア・NPOに関する相談や情報提供、講座の開催などを行っていました。当団体は、同施設の管理運営を終え、2008年6月末に解散しました。

かわうその里読み聞かせ推進事業

実施団体名　かわうその里おはなしの会
連　絡　先　〒785-0013　高知県須崎市西古市町6-15　須崎市立図書館内
TEL:0889-42-2141　FAX:0889-42-2141
E-mail:tosyokan@city.susaki.kochi.jp

活動の概要

近年の読み聞かせに対する関心の高まりに応え、読み聞かせ活動を市内全域に広めるため、子どもたちに本の楽しさを届ける読み聞かせ活動を実施しています。

短時間でも子どもたちの週末の「居場所」となり、地域住民も楽しめる場ともなるよう心がけています。当会の開催するイベントには、おはなし会・研修会・フォーラムなど、会員はもとより関心のある方ならどなたでも参加出来ます。


おはなし会での絵本の読み聞かせの様子

活動の内容

◆おはなし会（年10回程度）

子どもたち（小学生以下）に読み聞かせ等を通して想像力あふれるストーリーに出会う機会を提供し、豊かな感性を育むお手伝いをすることを目的にしています。

特色としては、読み聞かせ等に紙芝居・マジック・腹話術、またボランティアグループによる人形劇など様々な余興を組み合わせて開催していることです。余興と組み合わせることにより、想像力あふれる言葉や文字になじみのない子どもたちが参加しやすくなると考えています。


おはなし会の合間には音楽に合わせて楽しく歌います

◆ボランティア研修会（年3回）

ボランティアをはじめ指導者の資質向上とネットワークづくりを目的に開催しました。講師は、県立図書館こども室等に紹介を依頼するとともに、出版社などからも情報を収集し、できるだけ選書や読み聞かせの技術習得など、日頃の活動から生まれた疑問や要望に応えられる研修内容としました。

◆フォーラム（年1回）

読み聞かせ（ストーリテリング含む）が子どもに与える効能や、読み聞かせによるコミュニケーションの大切さ、および地域の図書資源の活用方法などについての啓発を目的としています。

親子で参加しやすくなるよう配慮し、加えて、地域住民・会員・ボランティア等が、読み聞かせ活動を通じて緩やかな関係性を築き、お互いに学び合えるようになってほしいと思っています。



読み聞かせフォーラムの様子


土佐民話のかたりべによる紙芝居

成果と課題

熱心で経験豊富な会員やボランティアに恵まれ、PR活動や会場の無償貸し出し・イベント開催等について、市のさまざまな施設から協力もいただいています。これらの活動の支えとなっているのは、活動に参加された方たちの笑顔を見る喜びであることは、言うに及ばないでしょう。

また、読み聞かせをする会員のほとんどが女性なので、男性の語り手をもっと増やしたいと思います。若い父親が参加してくれることにより、家族揃っての参加も見込まれます。

当会は、会員自らも楽しめるイベントづくりをモットーに、今後この活動が子ども又は大人にかかわらず想像力を培う場となり、さらに他者との楽しい交流の場となるよう、続けていきたいと考えています。

団　体　の　概　要

平成15年4月発足　現在会員数は22名

当会は、子どもたちに楽しくて想像力あふれる「おはなしの時間」を届けると共に、それを支援するボランティアさんのネットワーク化を目指している。

JPIC読書推進活動

実施団体名　財団法人　出版文化産業振興財団（JPIC）
連　絡　先　〒101-0051　東京都千代田区神田神保町3-12-3　神保町スリービル8F
TEL:03-5211-7282　TEL:03-5211-7285
E-mail:info@jpic.or.jp
URL:http://www.jpic.or.jp/

活動の概要

19年度は「JPIC読書推進活動」として3活動を実施しました。「JPIC読みきかせサポーター講習会」「読書支援講座～10代の読書はおもしろい!」では子どもたちに本を手渡す方を対象に講習会を、「上野の森　親子フェスタ」では親子を対象に読書の魅力を伝える講演会を行いました。



JPIC読みきかせサポーター講習会

活動の内容

■「JPIC読みきかせサポーター講習会」

全国15会場（プログラムA・10回、プログラムB・5回 各日10:30～16:00）にて実施しました。読みきかせを中心に講習を行い、年齢別の絵本紹介や大型絵本の活用法など、参加者が次の日から活用できるよう、実践的な内容としました。具体的には、子どもの読書環境整備に関する情報提供のため、配布資料や総括での現状報告を充実させました。

〔実施プログラム〕

＜プログラムA＞

特別講演「絵本の楽しみ方」、実技とポイント「おはなし会をするために①②」、総括「地域に広がる読みきかせ」

＜プログラムB＞

実技講演「おはなし会に活かすパネルシアター・ペープサート」、実技



「上野の森 親子フェスタ」講演会

とポイント「おはなし会をもっと楽しくするために」、総括「地域に広がる読みきかせ」

参加者は各会場100名を募集し、1,888名の申込、1,428名の参加。

■「読書支援講座～10代の読書はおもしろい!」

全国5会場で実施しました。子どもたちが自分で読む読書を手助けするため、10代に読んで欲しい文学を中心に紹介しました。学校ボランティアや図書館員の参加が多くありましたが、中学生や高校生の参加もあり、質疑応答の時間には積極的に手を挙げる学生が見られました。

〔実施プログラム〕

翻訳家による基調講演「10代の読書はおもしろい」、JPIC読書アドバイザーによるブックトーク講義「10代の読書を考える」、ブックトーク実演参加者は各会場100名を募集し、667名の申込、481名の参加（内、学生31名）。

■「上野の森 親子フェスタ」

5月3日～5日、台東区・上野恩賜公園にて開催しました。東京国立博物館平成館大講堂で行った講演会は計6コマ（2,888名の申込、1,816名の参加）。公園中央噴水池周辺ではおはなし会や紙芝居を随時実施しました。

成果と課題

「JPIC読みきかせサポーター講習会」は15年度より助成を受け、全国各地で開催してきましたが、地域によっては定員に対し2倍以上の申し込みがあった会場、定員に満たなかった会場とばらつきがありました。有料講習会のため、受講姿勢は大変積極的で、プログラム内容が受講後の活動に有効に活かされています。

また、参加者からのアンケートによると、大変好評で、再度の地元開催を希望される方がほとんどです。今のところ予算の都合上、大都市以外は3～4年に1回程度しか開催できていません。

「読書支援講座～10代の読書はおもしろい!」は類似事業が他にないため、どの地域でも遠方からの参加者も多数います。中高生の読書を応援するための事業として、これからも積極的に続けていきたいと考えています。

「上野の森　親子フェスタ」では、GW期間中、動物園や美術展に多くの来場者があり、普段は本に触れる機会が少ない家族にも、積極的に本・読書の魅力をPRすることができました。このような場を通じ、広く読者への興味関心を喚起したいと考えています。



「上野の森 親子フェスタ」おはなし会

団　体　の　概　要

平成3年に経済産業省の認可を受け設立された財団法人です。（平成17年より文部科学省と共管）出版文化産業と読書を軸に生涯学習事業や人材育成、情報提供事業を行っています。「JPIC読書アドバイザー養成講座」「JPIC読みきかせサポーター講習会」を修了・参加された方は約3万名を超え、様々な読書推進事業に協力いただくネットワークを築いています。

子どもと本をつなぐ

実施団体名　熊取文庫連絡協議会
連　絡　先　〒590-0422　大阪府泉南郡熊取町希望が丘2-5-7
TEL:072-453-2081　FAX:072-453-2081

活動の概要

熊取の子どもたちの豊かな成長を願って活動を展開しています。子どもたちに本の世界の楽しさを伝える活動はそのひとつです。そのためには大人が本や子どものことを学ぶ必要があります。今回は、子どもが参加できるプログラムと大人向けの学習会を展開しました。



科学あそび　「びっくり箱」を作る

活動の内容

子ども対象の活動

＊科学あそび「空気であそぼう」

科学のおもしろさ、科学の本の楽しさを子どもたちに知ってもらうために年1回、実施しています。空気でふくらむおもちゃ（びっくり箱、風船自動車など）を作り、空気の不思議を体験しました。

＊ワークショップ「お面を作ろう」

絵本作家スズキコージ氏を招いて、その作品に触れ、廃材を使ったお面の手作りを楽しみました。

大人対象の活動

＊絵本講座

月1回、大人、特に子育て中のお母さんが子どもと一緒におはなしを聞いたり、絵本を読みながら、子どもの読み聞かせについて学ぶ場です。野歩きやわらべうた、手遊びも取り入れています。

＊おはなしボランティア入門講座（全10回）

初めてボランティアに取り組む人が、おはなし（ストーリーテリング）、絵本の選び方・読み方、プログラムの組み立て方など、図書館・学校・保育所での活動に欠かせない基本的知識と姿勢を学びました。

＊おはなし会
「せかいめぐり おはなしでこんにちは」

ストーリーテリングを楽しみながら、おはなし会の持ち方、子どもたちに喜ばれるおはなしについて学びました。学んだことを実践するため、子どもを対象にした「夜のおはなし会」も開きました。

＊講演会

①「世界がもし100人の村だったら」の著者、池田香代子氏から世界の子どもたちの状況についてのお話をうかがい、私たちにできることは何かを話し合いました。
②「転換期における社会と教育－学校図書館への期待」と題して、メディア・リテラシー教育の研究者のお話を聞き、子どもの学びのあり方、これからの学校図書館の役割について考えました。町内の全小中学校に配置されている学校司書も参加し、住民との交流の場を持ちました。

成果と課題

子ども対象の活動では、子どもの年齢によって楽しめる内容が違うため、対象年齢を明確にした方がいい場合があります。毎年続けている「科学あそび」では年齢別に3部構成にしたことで、無理なく取り組むことができました。展示した科学の本は夏休みの自由研究などに利用されて、図書館利用の方法を知ってもらう機会にもなっています。

近年、図書館・学校・保育所での活動の機会が増え、スタッフの養成が急務になっています。初めてボランティアをする人を対象に「おはなしボランティア入門講座」を開いた結果、予想以上に新しい参加者があったことは大きな成果でした。受講者はおはなしや本の世界を学びましたが、短期間の講座を受講しただけで簡単に活動できるようになるわけではありません。ここで養成した人を大切に育てていくことが今後の課題です。

おはなし会、講演会は専門家のお話を聞くことができる貴重な機会です。また、子どもに関わる様々な立場の人が交流できる場でもあります。ニーズに合った企画をし、情報を発信し、より多くの人に参加してもらえるように努力したいと思います。



絵本講座　「くまさん人形」でこんにちは

団　体　の　概　要

子ども文庫、おはなしキャラバン（熊取町内の小中学校・保育所の子どもたちにおはなしと本を届ける活動）、子どもの本の会、ブックスタート（熊取町との協働で実施している子育て支援事業）を継続しています。「熊取町子ども読書活動推進計画」に基づき、熊取町・熊取町教育委員会の後援、熊取図書館の協力を得て活動しています。

『しいくいんさんのハート(動物園で絵本と心に触れる会)』／『みて☆きいて☆さわって☆しぜんのなかでかみしばい』

実施団体名　でさきっずくらぶ

連　絡　先　〒706-0316　岡山県玉野市沼952-2　林原類人猿研究センター内
TEL:0863-43-9520　FAX:0863-43-9521
E-mail:tedu@gari.jp

活動の概要

子どもたちの絵本や紙芝居への関心を喚起するため、動きのある、より楽しい読書活動を目指し、読む・聞く活動に体験活動を組み合わせた2種類のプログラムを実施した。プログラムで使用した絵本や紙芝居は目的に合わせてすべて手作りした。

1つは、ヒトと動物の関係に目を向け、生きものに対する優しい心を育むことを目的として、動物園(または研究施設)を訪れる親子を対象に、飼育員と動物のつながりを描いた絵本を用いて活動を行った。

もう1つは、自然環境に目を向ける姿勢を養うことを目的に、一般の小学生を対象に、季節の変化や自然の営みを考える紙芝居の上演や「五感」をはたらかせて自然を感じる活動を野外で行った。

活動の内容

◆プログラム1:
『しいくいんさんのハート(動物園で 絵本と心に触れる会)』

京都府・岡山県・福岡県内の3施設で計6回実施した。開催場所の動物園(または研究施設)の飼育員と動物の関わりを筋書きとした絵本を作製し、その物語を読み進めた。物語に親しんでもらうため、絵本に登場する飼育員から直接話を聞いたり、動物を見たり、触れたりすることで、絵本の内容を実体験した。さらに、それらの経験をもとに、参加者自身が絵本の中のコメントを考え、世界に一つだけのオリジナル絵本を作りあげた。

＜京都府:京都市動物園＞
2007年12月1日
(午前の部)
**「ぼくらはグッドパートナー
お父さんになってね。ガイ」**
(午後の部)
**「ぼくらはグッドパートナー
ありがとう、ゴン!!」**

＜岡山県:林原類人猿研究センター＞
2008年2月24日、2008年3月2日
**「ふたりはグッドパートナー
こころのとびらがひらくとき」**
＜福岡県:到津の森公園＞
2008年3月29日、30日
**「もっと!もっと!!モルモット!!!
ひろがれ!ふれあいの“わ”」**

◆プログラム2:
『みて☆きいて☆さわって☆しぜんのなかでかみしばい』

岡山県玉野市出崎半島で実施した。森の中の特設会場で季節の変化について考える内容の大型紙芝居を上演したのち、五感(「見る」「聞く」「さわる」「かぐ」「あじわう」)をはたらかせて春のおとずれを実際に体感した。活動中に発見したことは各自でカードに記入しボードに貼り付けた。紙芝居の再演時に、そのボードをお話の一部として紙芝居に組み込み、活動の振り返りを行った。


つぼみの感触を指先で確かめる


絵本の内容と同じことを体験する

(開催日)
2008年3月1日、2008年3月19日
(紙芝居タイトル)
「冬?それとも春?ごかんをつかってかんじYo!はるのおとずれ」


(森の中で紙芝居を上演する

成果と課題

いずれの活動も、絵本や紙芝居をただ読む・聞くだけでなく、体験活動を読み込んだことで、子どもたちは実感をともなって物語を楽しむことができた。参加者が夢中になって絵本や紙芝居に見入る様子から、本活動が読書活動への意欲や関心を高めるきっかけにつながったと言えるだろう。初めての企画のため準備段階で多くの課題を残したが、今後も継続的に実施することで、プログラムを洗練させるとともに、絵本や紙芝居の種類も充実させたい。

団　体　の　概　要

(株)林原生物化学研究所類人猿研究センター内に設立された任意団体。「つながり」をテーマに、楽しくて特色ある教育活動の開発と実践に努めている。環境や命の大切さを伝える人形劇や自然の不思議を体感する屋内外の環境教育プログラムなどを地元の学校や公民館、動物園などで実施している。

小郡市「子どもの読書活動」支援2007

実施団体名　小郡市「子どもの読書」関連団体連絡協議会
連　絡　先　〒838-0142　福岡県小郡市大板井136-1　小郡市立図書館内
TEL:0942-72-4319　FAX:0942-72-3501
E-mail:library-ogori@izm.bbiq.jp

活動の概要

子どもの読書環境をより豊かなものにするために、読書ボランティアのスキルアップを目的とした講座と、子どもに関わるすべての大人に向けて、子どもの読書活動への理解を深めるための講演会を開催した。



子どもの読書活動推進講演会

活動の内容

◆読書ボランティア講座「子どもの本を知る」

第1回　「楽しい科学読み物」
講師 市川美代子氏(科学読物研究会)

第2回　「幼年文学について」
講師 土居安子氏(大阪国際児童文学館)

◆子どもの読書活動推進講演会
「読む力は生きる力」
講師 脇 明子氏(ノートルダム清心女子大学教授)

学校の「朝の読書」や読書関連の行事、また、授業に招かれてブックトークを行うなど、読書ボランティアの活動の場は広がり、期待も責任もますます大きくなっている。

読書ボランティア講座では、活動の要である“子どもに本を手渡す”のに必要な、子どもの本に関する知識を深めることを目的に行った。できるだけ具体的に学び、身につく講座となるようテーマをしぼり、専門的な知識を持った講師にレクチャーをお願いした。



読書ボランティア講座　科学読み物

「科学読み物」の講座は、実際にたくさんの本を紹介してもらいながら、すぐれた科学読み物とはどんな本であるかを探った。また、本のなかに出てくる植物を一緒に見たり、工作や簡単な実験をするなど、子どもにとって科学がより身近になる本の紹介の仕方を教わることにより、苦手意識の強い「科学読み物」についてボランティア自身の興味が深まった。

「幼年文学」の講座は、「幼年文学」とは何かを考えるため、『くまの子ウーフ』など幼年文学作品の一場面を読み、どんな特徴があるかを数人に分かれて話し合うことなどにより、より深く学ぶことができた。

子どもの読書活動推進講演会は、“子どもにとって読書とは何か”を再確認し、家庭や学校、社会で子どもの読書環境を整え、質の高い読書体験ができるように支援する機運が高まるよう、長年、子どもの本と読書について研究をされている方を講師としてお招きした。

子どもの読書活動を推進するなかで、子どもがたくさんの本と出会うことを願うあまりに、子どもの読書の質について考えることなく、多読を良しとすることへの警鐘を鳴らす、といった内容は、子どもと読書を考える貴重な機会となった。

成果と課題

質の高い活動を継続するためには読書ボランティアが必要であると考え、今回の講座を企画したが、どのくらいの人が受講してくれるだろうかと懸念していた。しかしながら、どちらの講座もたくさんの申込みがあり、読書ボランティアへの関心の高さがうかがえた。スキルアップが必要だと感じてはいながらも、研修の機会がなく悩みを抱えているボランティアが多いことは、参加者のアンケートからも感じられた。今後も継続して、読書ボランティアの研修や交流の場をつくることが大切であると考える。

一方、研修の必要性を感じていない人たちに、どのように働きかけるかも課題のひとつである。ボランティア同士のつながりを広め連携していく必要性を感じた。

また、子どもの読書環境を整えるためには、読書ボランティアだけでなく、子どもに関わる人たちが手を携えなければならない。今回の子どもの読書活動推進講演会は、保護者や教育関係者の参加もあり、受講できて良かったとの声が多かったことからもこれからのネットワーク作りの手ごたえが感じられた。より多くの人の理解を得るためにもこのような機会を設け、子どもの読書についてともに考えていきたいと思う。



「幼年文学講座」での話し合いの様子

団　体　の　概　要

小郡市内を中心に活動する読書ボランティア団体が、連携と交流、情報交換を目的として協議会を設立。以来、合同で研修会やおはなし会を行っている。

読み聞かせ活動

実施団体名　トトロの会
連　絡　先　〒969-6546　福島県河沼郡会津坂下町宇曲田1342
TEL:0242-83-1279　FAX:0242-83-1279

活動の概要

平成6年、公民館図書館から頼まれて、夏休み・冬休みに絵本の読み聞かせをはじめる。次第に協力してくれる人達も増え、翌年から定期的に活動するようになったが順調にはいかなかった。私たちは会を続けるにあたり自分たちなりにその意味を考えまとめている。

第1に子どもが絵本を好きになって欲しい。第2に自分達の経験から考えても、読書がいつか子どもの支えになるであろう。第3に親子（家庭）での読み聞かせがあくまでも中心であって、私達はその手助けをしていく。そこで培われる親子の情愛が人間相互の信頼の土台となるだろう。

以上の3点を会の趣旨として活動を行っている。



手作り、箱を折りたたんで「桃太郎」

活動の内容

原則として月の第2・4土曜日に公民館で会を開いた。はじめのうちは子どもが集まらず、町内や学校内にポスターを貼布した。小学校・幼稚園の先生方に頼んでチラシを配布してもらい、さらに毎月、町の広報誌に掲載して広く読み聞かせ会を周知している。

また、子どもがシールの貼布を喜ぶことをヒントに、年間予定日を記入した手帳を渡し、会の終了後トトロの絵の印を押してあげたり、子どもが喜ぶようにトトロの絵柄のTシャツを着て読み聞かせを行っている。



読み聞かせの様子

平成19年5月26日の活動例
1.絵本 くまくんのトロッコ
2.紙芝居 なまけもののろばのはなし
3.絵本 ぶんぶんぶるるん
4.（大型）そらまめくんのベッド
5.大型紙芝居 たべられたやまんば
＝手あそび（大きな畑を耕して）＝
6.ルディのゆうき
7.そばのはなし

成果と課題

公民館で読み聞かせをはじめた頃、子どもが備品にさわり、和室の中を走り回っても注意しない親がいた。小学生や園児の中にはお話の聞けない子どももいたが、今はほとんど読み聞かせにしっかり耳を傾けてくれる。地域の小学校の中には、隣接する幼稚園と相互に参加し合い、子どもの絵本の読み聞かせを多くしてくれている。朝自習の時間に保護者の協力で読み聞かせを実施している学校も出てきた。児童が自主的に読書に取り組んでいるケースもある。また小規模校だが毎月図書だよりを家庭に配布している学校もある。こうした活動はトトロの会のはたらきかけだけでなく、時代の流れや要望にもとづくものもあろうが、喜ばしいことである。

街中やスーパーの中で「あっ、トトロのおばちゃんだ」とか「さよなら」と子ども達に声をかけられ、とても励みになっている。

課題として、この地域では絵本のことや、現在の子どもの姿やその生活について、或は読む技術を磨く研修等の機会が少なく、他地域にあるグループとの交流がもてないでいる。

また、中学校・高校での読み聞かせも、とても大切なことであるが、現状ではそこまで取り組むことは難しい。最近では、会員が固定化され、会への参加者・協力者が不足しているため、裾野を広げる方策を検討している。



クリスマス会

団体の概要

公民館での読み聞かせの他に頼まれて小学校や居場所づくり、また幼稚園にも出向いている。冬期間は降雪のため、公民館の活動は中止し、会員の読み方の勉強会を行っている。絵本の選定・読み方など、各人の持ち味を尊重している。

はんもっく読み聞かせ会

実施団体名　はんもっく
連　絡　先　〒592-0014　大阪府高石市綾園4-7-13
TEL:072-264-8922　FAX:072-264-8922

活動の概要

子どもの健全育成・情操教育の目的のため、大人ではなく、中学生による年下の子どもたち（幼児～小学生）への読み聞かせ活動としていることが特色である。伝えたい相手に対して、どのように話をするか、相手が話したいことをどのように聴くのか、ということを学ぶことにより、相手を尊重する気持ちや、命を大切にすることを知ることができる。活動の積み重ねによって得られる小さな自信が「生きる力」を育み、「ほめられる」ことで他人への思いやりなど育つことが期待される。

活動の内容

活動は、①お話の練習と読み聞かせ会②読み聞かせを行った。子どもたち自ら選択した本を1～2冊、年度末（2月23日）の発表会に向けて7回もの練習を積み重ねた。

① 練習兼読み聞かせ会
9:30～受付（お絵かき、ブロック遊び）子どもの世話が中心
10:00～体ほぐし体操・童話
11:00～各自選択した絵本・落語ばなし等練習
11:50～担当指導者読み聞かせ

② 読み聞かせ会
13:30～受付（お絵かき、ブロック等）
14:00～手あそび
14:10～読み聞かせ会
15:00～15:10　トイレ休憩
15:10～担当講師の読み聞かせ会
（※よみ手の生徒数が多い時は、時間が延長する事も有）

読み聞かせ会（土曜日）
・校区内中学校・図書室
・校区内小学校・体育館
・校区内保育所・ホール
・発表会


保育所での読み聞かせ会


中学生による読み聞かせ会

成果と課題

読み手である中学生の中に、人との付き合い方が不得意な生徒であったり、自分自身の存在ですら不安に思っていたり、自己表現がうまくできない子どもたちが、参加していた。

子どもたちは、地域のボランティアの人たちと接する中で、少しずつ気持ちがほぐれていったようだ。また、小さな子どもの世話をすることや、発表の経験を積み重ねることで、学校生活にも積極的に参加することができるようになった子どももいた。

今後の課題としては、高校生となった読み手と、中学生との活動期間の調整が難しくなったこと、子どもたちの表現力を導き出すためには、本の内容が重要であり、その選択が難しいことである。

団　体　の　概　要

平成17年11月1日に会を発足した。読み手の中学生を春に募集して、毎月第2土曜日の午前中を練習会、午後を発表会として取り組んでいる。

なお中学校を卒業した過去の参加者が、高校生となって会に参加してくれるようになり、現在登録ボランティアは30名を超えている。

“絵本の世界を味わおう!”

実施団体名　子どもと本をつなぐ会“結”
連　絡　先　〒377-0005　群馬県渋川市有馬425-1
TEL:0279-30-2176　FAX:0279-30-2176

活動の概要

アニマシオンの手法を通して子どもたちに物語の解釈に深みを与えるとともに、本に出てくる料理を作り味わってみることで、本の楽しみ方も広げる活動である。

また、これら活動により、子ども同士の交流も深め、子どもが良い本と出合うチャンスをたくさん提供している。

※アニマシオン：子どもの読む力を引き出すために開発された読書指導のメソッドで75の方法がある。



本読みの様子

活動の内容

子どもを対象に毎回、アニマシオンの異なる作戦を用いて絵本の世界を深めていく。その後、その絵本に出ている料理をみんなで作ってその料理をいただいた。



本読みの様子2



餅作りの様子

①7月8日(日)
導　入:「なぞなぞ」
(詩「のはらうた」より)
作戦1:「いる?いない?」(絵本「王さまと九人のきょうだい」使用)
作戦2:「ダウト」(絵本「かいじゅうたちのいるところ」使用)
料　理:「フレンチトーストとオニオンスープ」(「かいじゅうたちのいるところ」より)

②9月2日(日)
導　入:「なぞなぞ」
(絵本「なぞなぞあそびうた」より)
作戦1:「前かな?後かな?」(絵本「にぐるまひいて」使用)
作戦2:「ここだよ!」(絵本「14ひきのあさごはん」使用)
料　理:「くるみパンときのこスープ」(「14ひきのあさごはん」より)

③11月11日(日)
導　入:「なぞなぞ」(俳句)
作戦1:「なんてたくさんのものがあるんでしょう!」(絵本「ペレのあたらしいふく」使用)
作戦2:「本から逃げた」(絵本「ばばばあちゃんのもち
料　理:本に出てくるやり方での「餅つき」(「ばばばあちゃんのもちつき」より)

成果と課題

絵本とその中に出てくる料理を実際に作ることで、多くの子どもたちに興味・関心を持ってもらえた。子どもたちからは、楽しかった、また参加したいといった感想が多く寄せられた。

アニマシオンを全員で楽しめるよう配慮したが、低学年から高学年までが一緒ということもあり、低学年には難しかったり高学年には物足りなかったものもあったようである。一方で、子どもたち自身が細かいところまで気が付き、良く見て、聞いており、その集中力に驚かされた。子どもの眼がキラキラ輝き、表情豊かに楽しんでいた様子を見て、大きな手応えを感じた。

料理は、少しでも自分の手が加わったものになるよう、作業してもらった。3回目の餅作りでは「エーッ!」と驚きの声を上げそうなものを作っていたが、みんなおいしい!と言って食べていた。

今回の活動は、会員のモチベーションが上がるなど良い刺激になった。アニマシオンに興味を持ち、講習を受けたい・別の機会にも実践したいとの希望が多く聞かれ、意欲的な姿勢を強く感じた。

これからも多くの子どもたちに本を手渡していきたい。その為には様々な子どもたちへの伝え方に関する研修を行うことが重要だが、このような活動の時期・場所などを十分検討する必要があるだろう。

団　体　の　概　要

渋川市内の小学校読み聞かせグループの連合体として発足。研修会・講習会の開催、学校図書室・読書環境の整備、読み聞かせグループ間の交流、読書会開催、会報発行等を通して読み聞かせ活動の推進に努めている。

10代の旅・体験学習支援システム −10代がつくる 自分の旅路−

実施団体名　財団法人　京都ユースホステル協会
連　絡　先　〒616-8191　京都市右京区太秦中山町29　宇多野ユースホステル内
TEL:075-462-2312　FAX:075-462-2289
E-mail:kyo-tabi@yh-kyoto.or.jp
URL:http://yh-kyoto.sakura.ne.jp/index.htm

教材の概要

「京都・旅しよう!!」は、Webを通して「自分自身で旅を選び、創る」こと「京都に住む10代の日常に、他都市にすむ10代に出会う」こと、また本教材から生まれる発見や交流によって彼らの旅心を刺激し、旅に出る最初の一歩を後押しすることを目的にした、10代の若者に向けた新しい旅の提案であり、教材です。

本教材の開発には京都市内の高校生・大学生など約50名が6ヶ月の月日をかけて、取材・撮影・録音・地図の作図に関わり、感性と京都の「街の空気」を大切にして作成しています。

作成を通じて学生たちは、日常の風景を人に伝える視点で、地域資源を見直すことにより、自分たちが住んでいる街（京都）の再発見をしただけではなく、人から情報を得る力また、人に伝える力（リテラシー）を高めることが出来きました。さらに、学生たちにとって、多くの人との関わりや出会いの経験が彼ら自身の成長につながったようです。



トップページ

教材の活用法

本教材は10人のライター（京都に住む10代〜20代学生）が取材した記事を読みながら旅で行きたいポイントを選びます。また、「人情」「くつろぎ」などのセンス（感覚）選択のついた京都市全域地図を見ながらポイントを選ぶこともできます。ただし、ポイント情報を入手するだけでは市販のガイドブックと変わりません。この教材では、選んだポイントを組み合わせ、自分だけのルートを作ることができると同時に、一緒に印刷し、オリジナル「京・旅本」をつくることができます。

教材の普及状況

「利用者の声」

10代での旅は私にとって大きなものでした。ひとり旅デビューは高校生1年生の時に来た京都。この教材をみて、大学生になった今もう一度、自分の原点である旅にふれてみたくなりました。このサイトを通じて輪が広がることを応援しています。

「実践事例」

京都市内のユースホステルのインターネットコーナーに、「京都・旅しよう!!」のバーナーを貼ってもらい、そこからダウンロードできる形で提供をすすめています。あわせて、「京都・旅」の絵はがきを投函できるポストと用紙を設置しています。


ここからみなさんの旅が始まります


錦市場魚屋さんのお兄さんに突撃取材

「更新計画等今後の課題」

京都の観光は、追従体験型の観光からエコツーリズム型へ。マスから個人へという動きに移りつつあります。その中で10代にとって大切なことは「旅（出会い）」のもつ教育力であると考えています。その実現のために、多くの人にこの教材を知ってもらうこと・発信すると同時に、この教材の製作段階に関わった多くの10代が得た「旅を創る」ことから養われる社会力を、青少年団体・旅行業者・メディアなどとの連携を図りながら、地域を活用した教育プログラム化・教材の拡充を目座しています。

また、国際観光都市京都である利点から多言語対応を行うことで、日本人以外が「場所（京都）」から学びの機会を生むことが次の課題です。

「教材へのアクセス方法や媒体の入手方法」

検索サイトから**「京都・旅しよう!!」**を入力する。もしくは、
http://yh-kyoto.sakura.ne.jp/index.htm
を入力するとアクセスできます。

団　体　の　概　要

ユースホステル運動は、若者たちが「旅」を通して、自然、文化、さらに、人間同士の相互理解を促進する、1909年にドイツで生まれた活動です。私たち（財）京都ユースホステル協会は、主に、青少年向けの活動や宿泊施設の管理運営を通じて、ユースホステル運動の普及、推進を図っています。

平成19年度助成活動で開発された教材一覧

教材の名称	HPアドレス	開発団体名（問合せ先）
飛びだそう！楽しい海・山・川の自然観察	http://www.hlnm.jp/	ひろしま生きた自然博物館
みんなで踊ろう レッツ！ヒップ！ホップ！	http://www.yume-zenshi.jp/hiphop/	全国視聴覚教育連盟
親子でつくろう！季節の味in家庭のキッチン	http://www.chifuren.gr.jp/tokyo/web/index.html	特定非営利活動法人 東京都地域婦人団体連盟
子どもたちによる「世界遺産子どもデジタル・アーカイブ」づくり	http://fish.miracle.ne.jp/silver/archive/index.html	石見銀山資料館
くらしに結びつくキャンプの工夫と楽しみ方	http://www.douren.org/~campdvd/yumecamp-top.php	ボーイスカウト北海道連盟札幌地区委員会
ツバメの観察の記録・共有ツール	http://www.tsubame-map.jp/	特定非営利活動法人 バードリサーチ
霊山白山とその麓の暮らし～先人の知恵に学ぼう～	http://haku-san.com/	勝山郷土研究会
火の国 お国じまん ねっとわーく	http://www.okunijiman.net/	特定非営利活動法人 教育改革ネット
みんなでできる楽しい理科教材の開発	http://www.j-muse.or.jp/rika/index.php	財団法人 日本博物館協会
ユビキタスおもしろ気象エコ教室	http://www.gakujoken.or.jp/omoshiroK/	科学講座研究会（CEMIの会）
自然は何色？色いろブック	http://www.yume-javea.jp/iroiro/	財団法人 日本視聴覚教育協会
富士山の水文化を世界に発信！「子どもと発見・富士山湧水物語」	http://www.yuusui-map.jp/	特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島
子どもたちと学ぶ青少年教育指導者のための食育講座	http://eled.jp/shokuiku/	特定非営利活動法人 eラーニング教育開発センター
あなたのまちの「世間遺産」をつくろう！	http://seken-isan.net/index2.html	財団法人 たんぽぽの家
食育教室～食をデザインする力をつけよう～	http://foodapproach.com/yumehp/yume/index.html	日本食文化環境研究所
アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブス～祖父母の物語を子どもたちへ～	http://www.ainu-museum.or.jp/takar/takar.html	財団法人 アイヌ民族博物館
運動でコミュニケーション！コーディネーショントレーニング	http://jacot.jp/kids/	特定非営利活動法人 日本コーディネーショントレーニング協会
院内課外活動教材ライブラリー	http://eled.jp/innai/	財団法人 民間放送教育協会
受け継がれてきた九千年の歴史と文化～うるしとわたしたちのくらし～	http://www.tohoku21.net/japan/	特定非営利活動法人 いわて芸術文化技術共育研究所
10代の旅・体験学習支援システム～10代がつくる　自分の旅路～	http://yh-kyoto.sakura.ne.jp/	財団法人 京都ユースホステル協会
みんなでやろう！地域に根ざした地球市民アワード	http://www.gcaward.com/	特定非営利活動法人 ECOPLUS
自炊体験サポートプログラム	http://mori.vkn.co.jp/shokuiku/	特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所
たんけん！年中行事の町 ニッポン横町へいらっしゃい	http://nenchu-gyoji.jp/	社団法人 全日本きものコンサルタント協会
詩人と遊ぼう ～はばたく言葉たち～	http://www.poetry.jp/vol5/index.php	コミュニケーション未来研究会
生活シミュレーションで育てる「聞く・話す・読む・書く」	http://www.e-kokoro.ne.jp/ss/n/	特別支援教育研究実践委員会
おはなしボランティア支援 読書活動実践データベースの開発	http://kids.iiclo.or.jp/ohanashi/index.php	財団法人 大阪国際児童文学館
地野菜で元気になる地域と子どもの体験教室	http://www.gakujoken.or.jp/jiyasai/index.html	財団法人 学習ソフトウェア情報研究センター

日中韓子ども童話交流事業

事業の概要

日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、お互いの文化を理解する機会を提供することにより、子どもの読書活動や体験活動の重要性について普及・啓発を図るため、「日中韓子ども童話交流事業実行委員会」を組織し、超党派の国会議員で構成される「子どもの未来を考える議員連盟」（会長：河村健夫元文部科学大臣）の参画を得て「日中韓子ども童話交流2007」を実施しました。

5回目を迎えた2007年は、小学校4年生から6年生の子どもたち100名（日本50名、中国25名、韓国25名）が集い、環境問題を背景とした「森」をテーマに、東京と長野を会場として一週間のプログラムに取り組みました。

事業の内容

東京の国立オリンピック記念青少年総合センターに参加者が集合し、3カ国混成の10グループに分かれ、「森」を象徴する黄緑色のTシャツを着て結団式に臨みました。結団式では河村健夫実行委員会事務総長（元文部科学大臣）からご挨拶をいただき各国の代表の子どもたちが抱負を述べました。

翌日は東京・上野の国立国会図書館国際子ども図書館で館内を見学。明治創設の建物には、世界中から児童書や関連資料が集められており、子どもたちは面白そうな絵本を手にとっていました。



結団式

長野では長野県黒姫山麓周辺で森の再生活動を続けているC. W. ニコルさんの「いのちの森」のお話を聴き、地球に暮らす生き物にとって森はどれだけ大切な存在かということを学びました。その後は蓼科(たてしな)山中腹の御泉水(ごせんすい)自然園を散策。実際に森の中を歩き、肌で自然を感じました。夜はコンサートや諏訪太鼓の演奏・体験を楽しみました。

翌日から、グループごとに手作り絵本制作に取り組み、サル(日本)、パンダ(中国)、トラ(韓国)の3匹の各国を象徴する動物に思いを託して、森を舞台とした10編の絵本が出来上がりました。


みんなで協力して絵本作り


絵本の発表会

グループ全員で協力して完成させた世界に一つだけの絵本を舞台で発表、各グループの友情をテーマにした感動巨編は、互いの胸に大きな感動を呼びました。

解散式では3カ国の子どもたちの代表6人が「もっと友情を深め、世界中の子どもたちと仲良くしたいと願います。」と宣言文を発表した後、別れを惜しみながら、再会を誓い各自帰途につきました。

世界に一つだけの絵本

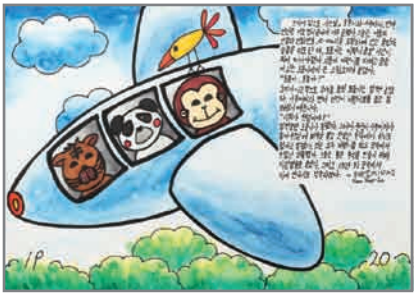
3カ国の子どもたちが、日本5名、中国、韓国2～3名の10班に分かれてサル(日本)・パンダ(中国)・トラ(韓国)という、それぞれの国の代表となる主人公に自分たちの気持ちを託し、班ごとでオリジナルのストーリーを協同して考え、1人ひとりが1場面ずつ担当し、世界に一つだけのオリジナル絵本を完成させました。

友情を深め合った1冊の本は、とても大切な思い出として心に刻み込まれたことでしょう。


日 本



中 国


韓 国

「子どもゆめ基金」への寄附団体

平成19年度に
「子どもゆめ基金」へご寄附をいただいた方々をご紹介します。

自 平成19年4月1日　　至 平成20年3月31日　　（あいうえお順・敬称略）

株式会社アサヒ情報	アスカ王国ふれあいの旅委員会
株式会社アメリアネットワーク	栄光電気株式会社
郷土愛媛と国際社会を考える会	児玉医院
特定非営利活動法人子ども文化ステーション	コンドウタケシ
株式会社 産経広告社　代表取締役社長　森 克蔵	株式会社サンテックス
株式会社ジンザイシヤ	西洋フード・コンパスグループ株式会社
社団法人全日本きものコンサルタント協会	曽我部國久
株式会社泰平総合建設	タフカ株式会社
財団法人　丹後あじわいの郷	出愛のかけはし実行委員会　代表　北澤 昇吾
東西化学産業株式会社　東京営業所	静岡大学農学部　鳥山 優
永井武義	中条康子
特定非営利活動法人西日本環境ネットワーク	日本テクノストラクチャア株式会社
特定非営利活動法人のむぎ地域教育文化センター	乗倉寿明
松下文治	宮野禮一
特定非営利活動法人メンタルフラワー普及協会	安髙紀美
株式会社ヤマソーコーポレーション	八幡野地区青少年育成会
有限会社ユウキ産業	株式会社ライフ
リトルファーム今野家　今野揚子	渡辺工業株式会社　代表取締役　白井節子

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子どもの体験活動や読書活動などの振興を図り、子どもの健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することにしています。

つきましては、下記の募金口座にて受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

振替口座

口座番号	00150-5-371382
口座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な振替払込書を中に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀 行 名	三菱東京UFJ銀行　　渋谷支店
口座番号	普通預金3025103
口座名義	子どもゆめ基金

子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

子どもゆめ基金ガイド2008　2008年9月発行

編　集　独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部
発　行　独立行政法人国立青少年教育振興機構
〒151-0052　東京都渋谷区代々木神園町3番1号
電　話　管理・普及課03-6407-7685　助成課：0120-579081
ＵＲＬ　http://yumekikin.niye.go.jp/
E-mail　yume@niye.go.jp

「子どもゆめ基金」は独立行政法人国立青少年教育振興機構の登録商標です。

教育施設一覧

当機構の全国28施設は、それぞれの地域の立地を活かした様々なプログラムを提供し、多くの青少年の体験活動を支援しています。

国立青少年交流の家

1. 国立大雪青少年交流の家（北海道美瑛町）
2. 国立岩手山青少年交流の家（岩手県滝沢村）
3. 国立磐梯青少年交流の家（福島県猪苗代町）
4. 国立赤城青少年交流の家（群馬県富士見村）
5. 国立能登青少年交流の家（石川県羽咋市）
6. 国立乗鞍青少年交流の家（岐阜県高山市）
7. 国立中央青少年交流の家（静岡県御殿場市）
8. 国立淡路青少年交流の家（兵庫県南あわじ市）
9. 国立三瓶青少年交流の家（島根県大田市）
10. 国立江田島青少年交流の家（広島県江田島市）
11. 国立大洲青少年交流の家（愛媛県大洲市）
12. 国立阿蘇青少年交流の家（熊本県阿蘇市）
13. 国立沖縄青少年交流の家（沖縄県渡嘉敷村）



国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

国立青少年自然の家

1. 国立日高青少年自然の家（北海道日高町）
2. 国立花山青少年自然の家（宮城県栗原市）
3. 国立那須甲子青少年自然の家（福島県西郷村）
4. 国立信州高遠青少年自然の家（長野県伊那市）
5. 国立妙高青少年自然の家（新潟県妙高市）
6. 国立立山青少年自然の家（富山県立山町）
7. 国立若狭湾青少年自然の家（福井県小浜市）
8. 国立曽爾青少年自然の家（奈良県曽爾村）
9. 国立吉備青少年自然の家（岡山県吉備中央町）
10. 国立山口徳地青少年自然の家（山口県山口市）
11. 国立室戸青少年自然の家（高知県室戸市）
12. 国立夜須高原青少年自然の家（福岡県筑前町）
13. 国立諫早青少年自然の家（長崎県諫早市）
14. 国立大隅青少年自然の家（鹿児島県鹿屋市）

独立行政法人 **国立青少年教育振興機構**

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1　TEL 03-3467-7201（代表）　URL http://www.niye.go.jp